



シスメックス

サステナビリティデータブック 2021

2020年度(2020年4月1日 - 2021年3月31日)

目次

02

CSR Management



CSRマネジメント

- 02 基本的な考え方・体制
- 03 マテリアリティとサステナビリティ目標
- 04 サステナビリティ目標の進捗状況

06

Society



社会

- 06 製品・サービスを通じた医療課題解決
 - 08 イノベーションを通じた医療課題解決
 - 10 医療アクセスの向上
- 14 責任ある製品・サービスの提供
 - 16 品質と信頼の追求
 - 21 サプライチェーンマネジメントの強化
- 24 魅力ある職場の実現
 - 26 働きやすい職場環境の確保
 - 28 ダイバーシティ&インクルージョンの推進
 - 30 人材の育成
 - 33 健康増進と労働安全の推進
- 36 社会貢献活動

38

Environment



環境

- 38 環境への配慮
 - 40 環境マネジメント
 - 43 製品ライフサイクルにおける環境配慮
 - 47 事業所活動における環境負荷低減

50

Governance



ガバナンス

- 52 コンプライアンス
 - 52 コンプライアンスマネジメント
 - 54 コンプライアンス推進の取り組み
 - 56 人権の尊重
- 58 リスクマネジメント
 - 58 リスクマネジメント体制
 - 59 事業継続に関わるリスクへの対応
 - 60 情報セキュリティの強化
- 61 ステークホルダーエンゲージメント

62

External Evaluation / Performance Data

社外評価・実績データ

- 62 社外からの評価
- 64 実績データ
 - 64 社会性データ
 - 67 環境データ
 - 72 第三者保証
 - 73 ガバナンスデータ

編集方針

シスメックスは、中長期的な価値創造の観点から、財務・非財務情報を簡潔にまとめた統合報告書「シスメックスレポート」を発行しています。「サステナビリティサイト」では、「シスメックスレポート」を補完する報告ツールとして、サステナビリティにおける重要課題(マテリアリティ)についての具体的な取り組みを網羅的に紹介しており、随時情報をアップデートしています。また、年度報告書としてWebサイトの内容をまとめた「サステナビリティデータブック」を毎年発行しています。Webサイト、データブックともに、全てのステークホルダーの皆様とのエンゲージメントツールとして、網羅性をもって開示するため、「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」の開示要求項目を参照しています。また、気候変動については「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言に基づき、各種情報の開示を行っています。

情報開示体系

| 財務情報 | 非財務情報 |
|---|---|
| 統合報告書「シスメックスレポート」(年度報告書) | |
| IR情報サイト https://www.sysmex.co.jp/ir/index.html 財務情報や株式・株主情報を詳細に開示しています。 ・有価証券報告書 ・決算短信 など | サステナビリティサイト https://www.sysmex.co.jp/csr/index.html ・サステナビリティデータブック (年度報告書) (PDF) https://www.sysmex.co.jp/csr/report/index.html |
| コーポレート・ガバナンスに関する報告書 https://www.sysmex.co.jp/corporate/governance_j.pdf | |

参考にしたガイドライン

- ・GRI (Global Reporting Initiative)
「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
- ▶ [GRI内容索引](#)
- ・環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

対象組織

原則としてシスメックス(シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社)を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス株式会社」は、シスメックス株式会社単体を指します。

第三者保証

各種ESGデータについて、毎年、第三者保証を取得しています。
▶ [第三者保証](#)

対象期間

2020年度(2020年4月1日から2021年3月31日)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。
※最新情報については、サステナビリティサイトで随時情報をアップデートしています。

発行時期

2021年9月(英語版は10月)

見通しに関する注意事項

本レポートに記載されているシスメックスの将来の計画・予測などは、現在入手可能な情報に基づくものであり、不確定な要素を含んでいます。これらの計画・予測と実績が大きく異なる可能性があります。

CSRマネジメント

基本的な考え方・体制

基本的な考え方

現在、地球上では、感染症の流行や高齢化、技術革新を応用した新たな治療法による医療費の高騰、新興国・開発途上国における医療アクセスの向上など、さまざまな医療課題が存在しています。「持続可能な開発目標(SDGs)」においても、人々の健康や福祉に関する目標が掲げられ、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

そうした中で、シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」のミッションである「ヘルスケアの進化をデザインする。」に基づき、創業から取り組んできた検体検査分野を事業の核としながら、世界の医療課題解決に貢献することを目指して活動しています。特に、世界190カ国以上の医療機関への製品・サービスの提供を通じ、「健康寿命の延伸」や「持続可能な医療インフラの構築」を実現することを目指しています。

こうした活動を継続していくためには、お客様、従業員、取引先、株主様、社会など関わる全てのステークホルダーと真摯に向き合うことにより、持続可能な経営を実現していくことが重要と考えています。「Sysmex Way」において、それぞれのステークホルダーに対する提供価値を明確にするため行動基準を制定するとともに、全グループ従業員が日々の業務において実践できるよう、浸透活動を行っています。法令遵守はもとより、常に高い倫理観に基づいた事業活動を推進していくことや、地球環境への配慮、多様な人材が働きやすいと感じる職場環境の構築などに取り組むことを大切にしています。

▶ 企業理念および行動基準

▶ シスメックスレポート(シスメックスの価値創造)

CSRマネジメント体制

シスメックスは、CSR活動の企画・立案および推進、社内外へのCSR情報発信などを行う専任部署としてCSR・環境推進部を設置し、取締役 専務執行役員の下、活動を推進しています。

また、持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題(マテリアリティ)を特定しています。2020年度には、新中期経営計画(2021-2023年度)の策定にあわせて、経済・環境・社会課題の変化を踏まえ、マテリアリティの見直しを行いました。あわせて、マテリアリティに紐づくKPIについても見直しを行い、新たにサステナビリティ目標として設定しました。サステナビリティ目標は、各部門の実行計画や活動に展開されます。また、その進捗は取締役会など経営会議で定期的に報告され、目標の見直しや新たな施策の検討などを行い、PDCAサイクルを回しています。

国連グローバル・コンパクト

シスメックスは、CSRへの取り組みを積極的に推進していくために、2011年2月、「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。マテリアリティの特定やCSR活動の推進にあたっては、国連グローバル・コンパクトの10原則や、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」などを参照しています。



国連グローバル・コンパクト



持続可能な開発目標(SDGs)のロゴ

▶ 国連グローバル・コンパクトの10原則 [🔗](#)

CSRマネジメント

マテリアリティとサステナビリティ目標

シスメックスは、持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題(マテリアリティ)を2017年度に特定しました。2020年度には、新中期経営計画(2021-2023年度)の策定にあわせて、経済・環境・社会課題の変化を踏まえ、マテリアリティの見直しを行いました。あわせて、マテリアリティに紐づくKPIについても見直しを

行い、新たにサステナビリティ目標として設定しました。サステナビリティ目標は、各部門の実行計画や活動に展開されます。また、その進捗は取締役会など経営会議で定期的に報告され、目標の見直しや新たな施策の検討などを行い、PDCAサイクルを回しています。

| | マテリアリティ | 貢献するSDGs | |
|-------|-------------------|--|---|
| 社会 | 製品・サービスを通じた医療課題解決 | イノベーションを通じた医療課題解決 医療アクセスの向上 | 3 すべての人に健康と福祉を 9 産業と資源効率の改善を促す 17 パートナリシップで目標を達成しよう |
| | 責任ある製品・サービスの提供 | 品質と信頼の追求 サプライチェーンマネジメントの強化 | 8 働きがいも経済成長も 12 つくも責任 つかう責任 |
| | 魅力ある職場の実現 | 働きやすい職場環境の確保 ダイバーシティ&インクルージョンの推進 人材の育成 健康増進と労働安全の推進 | 5 ジェンダー平等を奨励しよう 8 働きがいも経済成長も |
| 環境 | 環境への配慮 | 製品ライフサイクルにおける環境配慮 事業所活動における環境負荷低減 | 6 安全な水とトイレを世界中に 7 再生可能エネルギーを拡大しよう 12 つくも責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を |
| ガバナンス | ガバナンスの強化 | コーポレート・ガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント | 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と正義をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう |

※ 新マテリアリティ:一部表現の変更等を行いました。前回(2017年度)からの大きな変更はありません。

▶ マテリアリティの特定プロセス

サステナビリティ目標の進捗状況

| マテリアリティ | 貢献するSDGsの目標 | KPI | 実績 | | | | 目標 | | |
|-------------------|--|--|---|--|--------|---------|-----------------|--------------------|--------|
| | | | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2023年度 | 2025年度 (エコビジョン) | |
| 製品・サービスを通じた医療課題解決 |    | ヘマトロジー市場シェア | ヘマトロジー分野における単年度の機器・試薬・サービスの市場規模に対する連結売上高比率 | 52.7% | 53.8% | 54.7% | 56.3% | — | |
| | | 特許保有件数 | 特許、実用新案、意匠の保有件数の合計 | 2,709件 | 2,987件 | 3,143件 | 3,485件 | — | |
| | | 特許出願件数 | 特許、実用新案、意匠の出願件数の合計 | 301件 | 346件 | 306件 | 287件 | — | |
| | | がんゲノム医療解析実施件数 ^{※1} | NCCオンコパネルを用いたがんゲノム医療解析実施件数 | — | — | — | 1.6千件 | — | |
| | | OSNA法による乳がん患者検査数 | 乳がん患者に対してOSNA法(がんリンパ節転移検査システム)を用いた検査の実施件数 | — | — | — | 46千件 | — | |
| 医療アクセスの向上 | | 新興国売上高 | 新興国の連結売上高 | — | — | — | 1,220億円 | — | |
| 責任ある製品・サービスの提供 |   | リコール件数 | 販売している製品(装置・試薬)を対象として、自主回収・自主改修を実施した件数 | — | — | — | 4件 | — | |
| | | FDA Warning Letter件数 | FDA Warning Letterを受けた数 | — | — | — | 0件 | — | |
| | | CSR調査回答率 | 原材料一次サプライヤー(国内・海外)に対して、CSR調査に回答したサプライヤーの割合(海外関係会社の直サプライヤーは含まない) | 81% | 84% | 85% | 89% | 90% | |
| | | サプライチェーンマネジメントの強化 | サプライヤーに対するトレーニング件数 ^{※2} | — | — | — | 2件 | 6件 | |
| | | サプライヤー第三者認証取得率 ^{※2} | 原材料一次サプライヤー(国内)の製造や製品品質に関する第三者認証の取得率 | — | — | — | 86% | — | |
| 魅力ある職場の実現 |   | エンゲージメントスコア | 企業風土調査結果 | 72% | — | — | 66% (EMEA除く) | 75% | |
| | | 働きやすい職場環境の確保 | 離職率 ^{※1} | 定年退職を除く、正社員のみ | — | — | — | 2.7% | — |
| | | | 有給休暇取得率 ^{※1} | 正社員1人あたりの年次有給休暇取得率 | — | — | — | 61.3% | — |
| | | | 男性育児休業取得率 ^{※2} | 男性従業員(嘱託・パートタイマー含む)のうち、配偶者が出産した男性従業員に対する育児休業取得者の割合 | — | — | — | 33.8% | 30.0% |
| | | ダイバーシティ&インクルージョンの推進 | 女性マネジメント比率 | 課長級以上の女性比率 | 15.2% | 15.2% | 15.5% | 16.2% | 17.0% |
| | | | 障がい者雇用率 ^{※1} | 従業員に占める身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者の割合 | 2.0% | 2.2% | 2.3% | 2.3% | 2.4% |
| | | 人材の育成 | 平均教育時間 | 会社が提供する研修を対象とした従業員1人あたりの平均教育時間(オンライン学習含む) | — | — | — | 24.5時間 | 40.0時間 |
| 健康増進と労働安全の推進 | 年間総労働時間 ^{※1} | 正社員1人あたりの年間総労働時間 | — | — | — | 2,030時間 | 1,950時間 | | |
| | 労働災害度数率 ^{※1} | 延べ実労働100万時間あたりの死傷者数の割合 | — | — | — | 0.78 | 0.58 | | |
| | 労働災害強度率 ^{※1} | 延べ実労働1,000時間あたりの労働損失日数の割合 | — | — | — | 0.05 | 0.02 | | |
| 環境への配慮 |     | CO ₂ 排出量の削減率(機器製品使用時) ^{※3} | 2016年度を基準年度とする機器1台あたりのCO ₂ 排出量の削減率 | 12%削減 | 10%削減 | 2%削減 | 8%削減 | 20%削減 | 15%削減 |
| | | 水消費量の削減率(機器製品使用時) ^{※3} | 2016年度を基準年度とする機器1台あたりの排水量の削減率 | 8%削減 | 2%削減 | 4%削減 | 6%削減 | 10%削減 | 15%削減 |
| | | CO ₂ 排出量の削減率(出荷物流) | 2016年度を基準年度とする単体売上高あたりの出荷物流に伴うCO ₂ 排出量の削減率 | 17%削減 | 1%増加 | 17%削減 | 25%削減 | 20%削減 | 15%削減 |
| | | 包装用資材削減率 | 2019年度を基準年度とする包装材料総重量の削減率 | — | — | — | 4%削減 | — | — |
| | | CO ₂ 排出量の削減率(事業活動) ^{※3} | 2016年度を基準年度とする連結売上高あたりの事業活動に伴うCO ₂ 排出量の削減率 | 14%削減 | 17%削減 | 13%削減 | 35%削減 | 40%削減 | 50%削減 |
| | | 事業所活動における環境負荷低減 | 水消費量の削減率(事業活動) | 2016年度を基準年度とする連結売上高あたりの事業活動に伴う水使用量の削減率 | 8%削減 | 7%削減 | 6%増加 | 7%削減 | 5%削減 |
| | リサイクル率 | 総廃棄物排出量あたりのリサイクル排出量の割合 | 89% | 76% | 67% | 78% | 85%以上 | 93%以上 | |
| | 総廃棄物削減率 | 2019年度を基準年度とする連結売上高あたりの事業活動に伴う総廃棄物量の削減率 | — | — | — | 7%削減 | 10%削減 | — | |
| | 製商品廃棄額対売上高比率 | 有効期限切れなどの理由により廃棄となった製商品の廃棄額対売上高比率 | — | — | — | 0.6% | — | — | |
| ガバナンスの強化 |    | コーポレート・ガバナンス | 投資家アナリストミーティング数 ^{※2} | 機関投資家・証券会社アナリストとのミーティング実施社数 | — | — | — | 506社 | — |
| | | コンプライアンス | 内部通報件数 | 内部通報受付件数 | 32件 | 14件 | 11件 | 12件 | — |
| | | | 倫理違反件数 | 法律に違反した事象、およびグローバルコンプライアンスコード違反があったとして制裁処分が科された事象の合計件数 | — | 9件 | 7件 | 5件 | — |
| | | リスクマネジメント | 情報リテラシー教育受講者数 ^{※1} | 情報セキュリティに関するトレーニングの受講者数(延べ) | — | — | — | 2,720名 | — |
| | | 災害対応訓練参加率 ^{※1} | 災害等を想定した安否確認ツールを用いた訓練参加率(長期休業者含む) | — | — | — | 98.7% | — | |

※1 対象:国内グループ会社 ※2 対象:シスメックス株式会社単体 ※3 過去の開示データから一部修正

2021年度からの新規KPI

製品・サービスを通じた 医療課題解決

なぜ重要か

近年、高齢化を背景として、増加する医療費の削減や健康寿命の延伸に関するニーズが世界的に高まっています。また、COVID-19のパンデミックを受け、グローバルヘルスの課題に取り組む重要性が世界中で再認識されました。SDGsのゴール3「すべての人に健康と福祉を」の中で掲げられているユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)※の達成には、医療インフラの整備、医療人材の育成が不可欠であり、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

これらの状況を踏まえ、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検体検査領域では、価値の高い検査や診断技術の創出、検査の普及などを通じた医療課題の解決が期待されています。シスメックスはこれらの課題に取り組むことで、医療の発展と人々の健やかな暮らしの実現に貢献すると同時に、新たな事業機会の獲得と持続的な成長を実現できると考えています。

※すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられることを意味する。

方針

グループ新中期経営計画（2021-2023年度）では、グループ最大の収益源であるヘマトロジー分野に加え、血液凝固分野・免疫分野、ライフサイエンス分野を重点分野と定め、優先的な資源配分により研究開発活動を強化し、新たな価値の創出と製品ラインアップの拡充を実現します。

▶シスメックスレポート

（持続的な成長を実現する戦略）

P8 イノベーションを通じた医療課題解決

P10 医療アクセスの向上

体制

取締役社長と担当執行役員で構成されたグローバル戦略会議において、グループにおける中長期的な経営の方向性や重要な戦略や課題に関する討議・審議を行います。

▶シスメックスレポート

（コーポレート・ガバナンス）

実績
(2020年度)



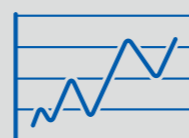
1.6 千件

がんゲノム医療解析実施件数



46 千件

OSNA法による
乳がん患者検査数



1,220 億円

新興国売上高

3 すべての人に
健康と福祉を



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



SOCIETY

マテリアリティ

製品・サービスを通じた医療課題解決

イノベーションを通じた医療課題解決

がんゲノム医療の取り組み

全世界におけるがん患者数は約1,810万人に上り、がんによる死亡数は約960万人と推計されています。また、今後20年間で患者数は6割増える可能性があると考えられています*。

シスメックスは、がん疾患の診断や治療方針の決定、治療中の効果測定、治療後のモニタリングなどに活用される検査の提供を通じて、患者さん一人ひとりのQOL向上と医療費抑制に貢献していきます。

* WHO「WHO report on cancer」(2020年2月発行)

がんゲノムプロファイリング検査

近年がん治療では、確定診断に加え、薬剤の効果予測や再発モニタリングなどを目的に、遺伝子やタンパク質を用いた多くの検査が行われています。

シスメックスと国立研究開発法人国立がん研究センターが共同で開発したがんゲノムプロファイリング検査用システムは、固形がんを解析対象とした腫瘍組織における124のがん関連遺伝子を測定し、包括的ながんゲノムプロファイルを取得することで、患者さんのがん固有の遺伝子変異を解析し、診断や抗がん剤選定などの治療方針決定に有用な情報を提供する検査として、臨床現場で用いられています。2021年2月には、検出可能な遺伝子の変異を拡大するなどの機能強化を行ったことで、適した薬剤投与の選択やそれに伴う治療成績の向上により寄与することが期待されます。

2021年度より、サステナビリティ目標のモニタリング指標として、がんゲノムプロファイリング検査の実施件数を設定し、今後のさらなる普及を目指していきます。



OSNA法を用いたがんリンパ節転移検査

がんの治療でのリンパ節転移検査は、術式選択などの治療方針を決定する上で重要です。通常、検査は手術で摘出したリンパ節の切片を用いて病理標本を作製し、術中または術後に病理医が顕微鏡によりがん細胞の有無を確認することで判定されますが、標本作製における作業負担が発生すること、また標本の質が作製者の技量に依存することや、病理医により標本の判定精度が異なることなどが医療現場における課題となっていました。

シスメックスは、独自技術であるOSNA法*を用いた乳がんリンパ節転移検査システムを開発し、リンパ節転移の有無を30分で判定可能にしました。検査を自動化・簡便化したことで、実施者の熟練度に依存せず、客観的な検査結果が得られるため、病理医の負担軽減と乳がん診療の標準化に貢献しています。また、短時間で検査結果が得られることで術中検査が可能となり、再手術による患者さんの負担軽減や再発リスクの低減にもつながります。

2021年度より、サステナビリティ目標のモニタリング指標としてOSNA法を用いたがんリンパ節転移検査(乳がん)の実施件数を設定し、今後のさらなる普及を目指していきます。

* シスメックスが開発した直接遺伝子増幅(One-Step Nucleic Acid Amplification)法。リンパ節へのがん転移の診断の補助を行う技術。



効率的な検査ワークフローを実現する血液凝固検査

血液凝固検査は、主に血友病などの「出血性疾患」や心筋梗塞・脳梗塞などの「血栓性疾患」の診断・治療に用いられる検査です。近年、生活習慣や高齢化に起因する血栓性疾患の増加や、出血性疾患におけるQOL向上を目的とした新しい血液製剤の開発などを背景として、これらの疾患の早期診断や適切な治療のため血液凝固検査へのニーズは多様化が進んでいます。その一方で、一般的な血液凝固検査は、免疫測定装置や血小板凝集能測定装置などの測定原理が異なる複数の装置を用いて行われるため、検査ワークフローの煩雑さや、患者さんの病態把握・診療に必要な検査結果の入手に時間を要するケースがあるなど、医療現場での課題となっています。

シスメックスが提供する全自動血液凝固測定装置は、血液凝固項目や血小板凝集能項目に加え、CLEIA法*を用いた凝固分子マーカーなど、血栓・止血領域における幅広い検査オーダーに応じて柔軟に測定することを可能とし、医療現場のニーズに応じた効率的な検査ワークフローを実現します。また、当社のネットワークソリューションCaresphereと連携することで、処理検体数や試薬等の消耗品残量、精度管理結果などの装置の稼働状態および検査室全体の稼働状況をお客様自身がリモートで簡便に把握・分析することが可能となり、検査室における日々の業務遂行の効率化を支援します。

* 化学発光酵素免疫測定法(Chemiluminescence Enzyme Immunoassay)



新型コロナウイルス感染症への取り組み

シスメックスは、自社独自の測定技術やアッセイサービスに加え、グローバルに存在するネットワークを活用した新たな診断技術を医療従事者へお届けすることで、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に貢献します。

▶ [新型コロナウイルス感染症への取り組みの詳細](#)

ストーリー ステークホルダーの声



「新型コロナウイルス感染症の検査キットを開発できないだろうか」2020年1月末に日本臨床検査薬協会を通じて国からある要請が届きました。シスメックスにおけるCOVID-19への取り組みの中心人物として、複数のプロジェクトをリードしているLS(ライフサイエンス)事業本部の責任者である谷口充がプロジェクト立ち上げ当時のことを振り返ります。

官民連携でPCR検査体制を構築しCOVID-19に立ち向かう
～国民と医療従事者への想いを胸に、ヘルスケアを担う企業として挑戦を続ける～

マテリアリティ

製品・サービスを通じた医療課題解決
医療アクセスの向上

世界には医療環境や医療制度など保健システムの未整備により、適切な医療を受けることが困難な地域が存在します。

シスメックスは、グローバルに事業を展開する企業が果たすべき責務の一つとして、一人でも多くの方が適切な医療を受けられるよう、新興国・開発途上国において検査の普及を通じてユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)*を推進する取り組みを進めています。

※ すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられることを意味する。

感染症診断へのアクセス向上

シスメックスは世界の三大感染症と位置付けられるマラリアやHIVへの取り組みとして、各疾病の診断を支援する技術・製品を提供しています。

マラリア・エリミネーションへの貢献

シスメックスは世界の三大感染症の一つであるマラリアの排除に向け、自社の事業分野である検査・診断領域における課題解決に挑戦しています。

2019年にCEマークを取得した多項目自動血球分析装置は、2020年6月に、マラリアの診断補助を目的とした高度管理医療機器(クラスIII)*¹として、国内で初めて薬事承認を取得し、アフリカの国々でも薬事申請を順次進めています。

現在主流となっているマラリア検査は、簡易診断キットや顕微鏡が用いられますが、いずれも前処理を含めて約15分から30分の時間がかかる上、顕微鏡検査には熟練の技術を要することが課題でした。それに対して多項目自動血球分析装置では、前処理作業を伴うことなく、マラリア原虫等に感染した赤血球の有無とその比率を約1分*²で高精度に自動測定することができます*³。

マラリアは、早期診断・早期治療により死亡者数を減らすことができる疾患であり、診断に有用な検査結果を迅速かつ容易に提供可能な本製品を臨床現場へ提供することで、国内の輸入感染症対策へ貢献します。

また、高度管理医療機器としての国内薬事承認は、新興国・開発途上国向けの医療アクセス改善を進める国際基金団体等の調達基準*⁴として挙げられています。国際基金団体

等と連携することで、新興国・開発途上国などの医療資源が限定される国や地域への導入を推進し、世界におけるマラリア排除(マラリア・エリミネーション)に貢献します。

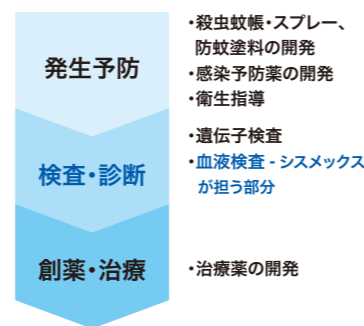
また、シスメックスは2016年よりマラリア対策に関係する研究機関・企業などにより構成されるマラリア・コンソーシアムの活動および運営に参画しています。アジア・アフリカにおいて産官学連携で進められるプロジェクト活動に、「検査・診断」分野で貢献しています。全セッションがオンラインで生中継された第7回日経・FT感染症会議では、マラリア・コンソーシアムでの産官学連携の取り組みについての活動報告を行いました。

※1 不具合が生じた場合、人体へのリスクが比較的高いと考えられる医療機器を指す。

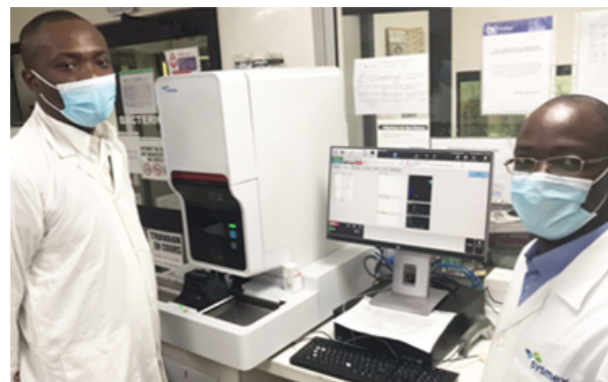
※2 検体セットから結果の判定までの時間

※3 顕微鏡法によるマラリア診断を置き換えるものではありません。また、本結果のみで診断を行うことはできません。その他の臨床情報を用いた医師の総合的な判断により確定診断がなされます。

※4 WHOや国際基金団体では、新興国・開発途上国におけるさまざまな製品の市場導入を加速するため、厳格審査機関を定め、その機関からのハイリスク製品としての承認取得を調達基準の一つとすることで、審査を簡略化することを認めている。日本における高度管理医療機器(クラスIII)としての薬事承認は、その厳格審査の基準の一つとなっている。



マラリア・コンソーシアムによるイニシアチブ



コートジボワールの医療機関に納入された装置

HIVの診断や治療の質向上への貢献

シスメックスは、シスメックス パルテックが開発・製造するCD4陽性リンパ球検査システムを新興国や開発途上国で提供しています。このシステムは、血液中のCD4陽性リンパ球の数と比率をわずか3分で測定し、小型・ポータブル式であることに加え、メンテナンスを簡略化するなど、簡便かつ迅速、安定的な検査を支援します。

またこのシステムは、WHOによる事前認証(Prequalification)*を取得しました。本認証の取得により、医療資源が限定される国や地域への導入が促進され、新興国や開発途上国におけるHIVの診断や治療の質向上に貢献しています。

※ 医薬品・検査・ワクチン等のヘルスケア製品を資源の限られた国々で安心して使用できるようにするため、WHOが品質や安全性、効能などを担保していることを示す認証制度。2001年にHIV/AIDS用の医薬品向けに制度が開始され、現在では新興国・開発途上国が物品調達時に参照するリストとして使われたり、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(Global Fund)をはじめとした基金団体がこの事前承認を受けた製品を優先的に選択している。



CD4陽性リンパ球検査システム

また、シスメックスはケニアでHIV/AIDSの医療体制構築に取り組んでいるNPO法人「イルファア」に対して、2010年度に血液計数装置を寄贈して以来、継続的な支援を行っています。同団体はHIV/AIDSに関する教育活動や無料診療を現地で定期的実施しており、シスメックスは2020年度にも同団体への寄付を行いました。

グローバルヘルス技術振興基金「GHIT Fund」に参画

シスメックスは、「開発途上国の人々が感染症による苦難を乗り越え、先進国と同様に繁栄と長寿社会を享受できる世界を目指す」を活動のビジョンとする公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)に2015年より参画しています。GHIT Fundの活動は第2期目(2018-2022年)に入り、当初の「製品開発」から「その製品を必要としている人々へ届ける活動」にシフトしています。当社も引き続きGHIT Fundの第2期の活動に参画し、日本発の技術革新による新たな感染症診断薬の開発・提供に向けた取り組みを推進し、開発途上国における感染症撲滅に貢献していきます。

ストーリー ステークホルダーの声



ヘマトロジー事業推進部で新たな診断技術の商品企画や事業推進、共同研究推進を担当する竹内ちあき。「道なき道を進むようだった」と、数年間にわたるプロジェクトを振り返ります。

診断装置の普及を通じたマラリア撲滅への挑戦

非感染性疾患診断へのアクセス向上

新興国・開発途上国では感染症がまだ大きな課題である一方、都市部を中心にがん、糖尿病、腎臓病などの非感染性疾患(NCDs)の患者さんが増加しています。シスメックスではNCDs対策において重要となる予防や早期発見・早期治療に必要な検査の普及に取り組んでいます。

ガーナへの尿検査自動化技術普及促進により「JICA-SDGsパートナー」として認定

シスメックスは、JICA「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」において、2018年よりガーナにて「尿検査自動化技術普及促進事業」を推進しています。ガーナの国立教育病院であるKomfo Anokye Teaching Hospital (KATH)へ尿検査を全自動化する尿検査総合搬送システムを導入し、現地の医療従事者に向けたセミナーやシンポジウムを開催しました(参加者数:延べ約500名)。2020年8月には、本事業がSDGs推進への取り組みとして評価され、「JICA-SDGsパートナー」として認定されました。今後も尿検査自動化技術の臨床的価値や有効性を啓発し、ガーナをはじめとする開発途上国における医療水準の向上に貢献していきます。



KATHでのシンポジウムの様子



シスメックス株式会社 様

貴団体は、独立行政法人国際協力機構(JICA)とのパートナーシップのもと、途上国の持続的な開発目標(SDGs)に取り組んでおり、これを認定します。

認定期間 2020年8月26日 ~ 2022年2月28日

2021年3月10日
独立行政法人国際協力機構(JICA)
副理事長/国内連携事業本部長 山田 順一

「JICA-SDGsパートナー」認定書

アジアにおける医療環境の整備

医療アクセスの向上には、医療インフラの整備とともに、適切に訓練を受けた医療従事者の存在が不可欠です。アジアにおいては、臨床検査室の品質向上や臨床検査の質向上を通じた教育支援に加え、医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会の開催、最新の学術情報の発信などを実施しています。

▶ 学術活動

質の高い検査データ提供のための技術支援

アジアでは、中国やモンゴル、カンボジア、ミャンマー、タイ、フィリピンにおいて、臨床検査の品質・精度向上のための支援活動を行ってきました。

モンゴルにおいては、従来のヘマトロジー・生化学・免疫分野に加えて、2017年からは新たに血液形態検査分野にも対象を拡大し、支援活動を継続しています。現地の臨床検査技師に、技術的、学術的ノウハウを提供するとともに、国家的に実施される血液形態検査の外部精度管理のしくみの構築・運営を支援することで、モンゴルの医療水準の向上に貢献しています。ミャンマー、カンボジアにおいても、血球計数検査の外部精度管理において同様の活動を展開し、臨床検査の質向上を支援しています。

また中国では、2002年より血球計数検査の国家の標準器*として、当社の血球計数標準器が採用されており、これを元に中国国内における全ての血球計数装置の登録検査や外部精度管理が行われています。また、血液検査・基準測定操作法の技術移管・技術交流、臨床検査国家ガイドラインの策定支援などの継続的な支援とともに、2019年度からは最新型の標準器の貸与を行っており、中国における血球計数検査の精度向上および検査の標準化に貢献しています。

* 血球計数検査の国家標準の値を決めるための装置



モンゴル保健省との契約締結式

アフリカにおける医療環境の整備

アフリカにおいては、南アフリカ、ガーナ、ブルキナファソ、ナイジェリア、エジプトの5カ国に現地法人を設立し、教育施設の展開や政府機関、研究機関、NPO等との連携などを幅広く行うことで、現地の医療水準の向上を目指しています。

臨床検査室のキャパシティ・ビルディングを支援

シスメックスは、アフリカの各現地法人にシスメックスアカデミーとよばれるトレーニングセンターを開設し、アフリカ各国の販売代理店や医療従事者などを対象に臨床的価値の教育や装置のメンテナンスなどの研修を行っています。また検査室の品質管理体制が国際基準ISO 15189に準拠するよう、独自に開発したメンターシップ・トレーニングを提供しています。



メンターシップ・トレーニングの様子

政府機関・国際機関との連携

シスメックスは、ブルキナファソの保健省と連携し、血液検査のネットワークを同国全土に確立・維持するプロジェクトを実施しました。施設規模に応じて装置を約100台設置し、650名以上の検査技師やエンジニア、小児科医に対してそれぞれの役割に応じたトレーニングを行いました。この取り組みを通じて、農村地域や遠隔地にある地元医療機関で新たに年間120万回の血液検査が行われるようになるなど、血液検査の機会が創出されました。今後マラリア検査、血液凝固検査においても同様の活動を行っていくことが決まっています。

またガボンでは、日本大使館による草の根・人間の安全保障無償資金協力「ランバレネ地方母子保健局機能拡充計画」「アケベ・プレ地方母子保健局機能拡充計画」において、両母子保健局の医療従事者に対する当社装置の使用法、メンテナンス等の研修を行い、保健人材育成と医療環境の改善に貢献しました。

ケニア、セネガルでは、ドイツ国際協力公社と医療機器メーカーとのStrategic Allianceの一員として、生体医工学分野の学士プログラム開発に関する提携に基づき、臨床検査技師を育成するプログラムを提供し、現地医療水準の向上に寄与しています。

また、シスメックス サウスアフリカは、世界中の医学部や医療機関と連携して教育・交流を促進する機関であるGEMx (Global Educational Exchanges in Medicine and the Health Professions)と提携し、さまざまな教育機会を提供しています。

このほかシスメックスは、アフリカ全土で各国保健省やWHOなど多くの政府機関や国際機関と連携し、各地の医療アクセス向上に取り組んでいます。

▶ COVID-19をはじめとするグローバルヘルス分野の課題解決に向けて

ストーリー ステークホルダーの声



プログラム受講者の声

「メンターシッププログラムでは、私たちスタッフに対して、検査室の品質向上に向けたトレーニングが行われました。国際基準に適合した臨床検査室の品質管理システムを学ぶことは非常に有意義で、検査の目的や有用性を再認識することができました。このプログラムを通じて、臨床検査の質向上が図れると実感しています。」

世界各国における医療アクセス改善と人材育成の取り組み

なぜ重要か

品質問題や製品の信頼性を脅かす問題により、製品・サービスの品質および安全性に対する社会からの要請が高まっており、また、企業の責任範囲は取引先を含めたサプライチェーン全体に拡大しています。さらに「持続可能な開発目標 (SDGs)」では持続可能な製造責任や労働環境に関する目標が掲げられています。

シスメックスは、人々の生命と健康に携わる医療業界で事業を展開する企業として、製品・サービスの品質・安全性を高め、適切にサプライチェーンを管理することは、医療の質向上に貢献するとともに、お客様満足度を高めブランド強化につながる重要な活動であると考えています。

方針

シスメックスは、「ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します」という品質方針に基づき、高品質で安全性の高い製品・サービスを提供しています。また、「調達方針」に基づきCSRに配慮した調達活動を推進し、取引先とともに持続的に発展することを目指しています。

▶責任ある製品・サービスの提供に関する方針

体制

取締役社長の統括・管理の下、品質保証部門が中心となり、品質マネジメントに取り組んでいます。また上席執行役員が管掌する生産SCM部門によるサプライチェーンマネジメントを推進しています。

P16 品質と信頼の追求

P21 サプライチェーンマネジメントの強化

目標
(2023年度)



90%

CSR 調査回答率
(国内・海外一次サプライヤー)



6件

サプライヤー
に対するトレーニング件数

8 働きがいも
経済成長も



12 つくる責任
つかう責任



SOCIETY

マテリアリティ

責任ある製品・サービスの提供
品質と信頼の追求

品質マネジメント

グループ品質マネジメント体制

シスメックスでは、取締役社長の統括・管理の下、品質保証部門が中心となり品質マネジメントに取り組んでいます。

具体的には、開発、製造、販売・サービスの各部門の責任者が出席する品質会議を毎月開催し、製品・サービスの品質・有効性および安全性のモニタリングと改善に向けた対策の検討を行っています。また、規制当局の査察、品質目標、マネジメントレビューからのアウトプット指示への対応などの審議を行う品質システム委員会を定期的に開催し、グループの品質マネジメントシステムの維持、改善に関する活動を推進しています。

また、全ての最終製品の生産拠点※で国際規格ISO 9001またはISO 13485の認証を取得しています。グループ全77社中では、ISO 9001は35社、ISO 13485は22社が認証を取得しています。2020年度の内部品質監査で11件の不適合が見つかり是正対応を進めています。外部品質監査での不適合はありませんでした。

さらに2021年度からは、「リコール件数」と「FDA Warning Letter件数」をサステナビリティ目標のモニタリング指標として設定し、さらなる品質の強化に努めます。

※ 100%子会社



▶ 詳細は www.tuv.com の ID 0910589004 を参照。☞
(活動およびサイトの適用範囲は規格により異なります。)

- ▶ 品質方針 📄
- ▶ 製品セキュリティポリシー 📄

継続的な改善プログラム

品質を維持・向上するためのしくみを強化

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守る上で極めて重要な役割を果たしています。その

ため、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全規格を満たすことはもちろん、さまざまなしくみを構築して、製品品質の維持・向上を図っています。

製品の開発プロセスにおいては、市場に導入するまでに5つの「クオリティ・ゲート」を設けて品質を確認しています。また新規製品には設計・開発段階で、既存製品には設計変更時において品質・安全性に関するリスクアセスメントを実施し、リスクの高い事象に関してはリスク低減の対応を実施しています。また、シスメックスが販売する他社製品についても製造業者への監査や製品の検査を実施し、品質確保に努めています。このような取り組みに加えて、万が一不具合があった際には、すぐにそれを把握し、対応できるような体制を整えています。

製造現場においては、製造工程およびサプライヤーの不適合発生状況を毎月監視し、不適合率の高いサプライヤーに対しては品質改善を適宜指示するとともに、定期的に品質監査を実施することで品質を確保する体制を整えています。さらにグローバル品質苦情処理システムによって、グローバルかつタイムリーに市場から品質情報を収集し、不具合情報を入手した際は直ちに原因を究明し、不具合品の市場流出を防止しています。また発生した不具合に対しは正処置・予防処置が必要な場合には、グループ規程に則って速やかに計画立案し、処置やその後の妥当性・有効性確認までを実施しています。

第三者機関から認定された品質の高い製品・サービスの提供

シスメックスでは客観的な信頼性を高めるため、製品の検査結果に関する品質保証体制を強化しています。

シスメックス国際試薬においては、標準物質生産者の能力に関する国際規格ISO Guide34(現在のISO 17034)の認定を取得しています。この認定の取得は、適切な品質の標準物質を供給できる能力を証明するもので、血球計数検査分野では日本で初めての取得となりました。本認定の取得により、当社製品・サービスのデータ保証に関わる客観的な信頼性が高まり、臨床検査機関のお客様は、適切な検査データを提供できる能力を持つことをグローバルに実証することができます。

▶ 臨床検査の質的向上へISOを活用

従業員へのトレーニング

品質・安全に関わる教育に注力

シスメックスでは、品質方針教育に加えて、品質マネジメントに関する関連部門への定期的な教育、特定の部門・職種を対象とした法規制に関する専門的な教育等を実施しています。2020年度は国内グループ会社の開発、製造、販売・サービス部門およびISO認証取得事業所全従業員約3,000名に対して品質教育を行いました。海外グループ会社についても、全ての最終製品の生産拠点※とISO認証取得事業所において品質教育を実施しています。

また、世界190以上の国や地域で製品・サービスを展開している企業として、開発部門の技術者に各国の法規制の教育を実施し、法規制に則った製品開発を徹底しています。

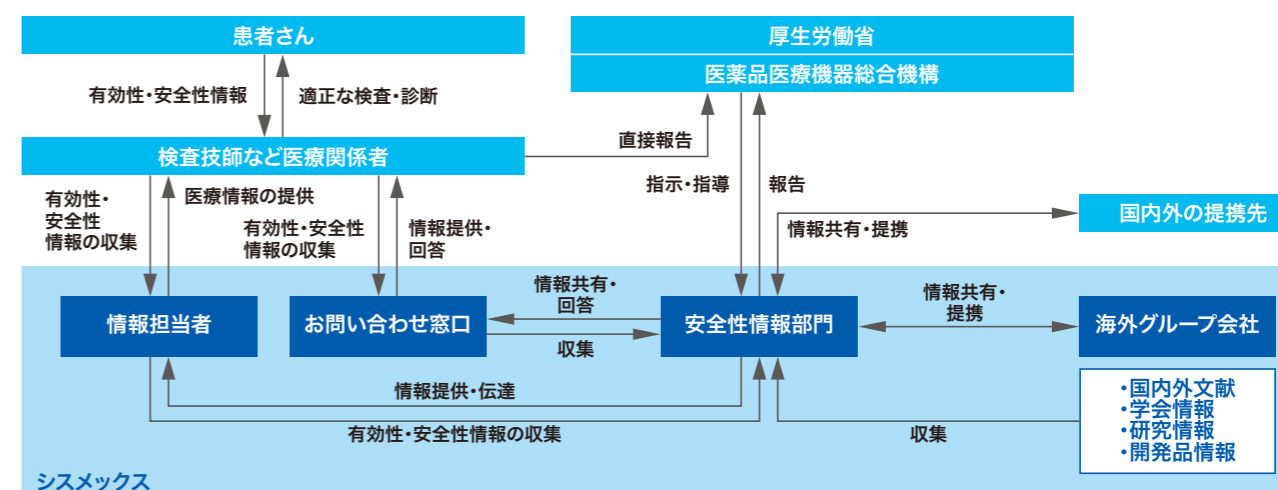
※ 100%子会社

品質・安全性に関する情報

お客様からの情報をグループ内で共有

シスメックスは、製品の品質と安全性に関する情報を管理する信頼性保証部を設置して外部から寄せられる情報を調査・分析して設計・製造など各部門と共有し、品質改善だけでなく、次代を担う新製品の開発に活かす体制を整えています。

製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



ウェブサイトで回収・改修の情報を開示

シスメックスでは、製品の回収・改修などの情報を当社ウェブサイト内「製品に関する重要なお知らせ」で開示しています。

▶ 「製品に関する重要なお知らせ」

模倣試薬の積極的な取り締まり

シスメックスは、正確な検査結果を保証するために、医療機関のお客様には純正の機器と試薬のセットでご使用いただくようお願いしています。近年、一部の地域でシスメックス製試薬の名称や容器の形状を模倣した試薬の流通が発見されています。模倣試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が保証できず、場合によっては患者さんに健康被害をもたらす危険性があります。このため、模倣試薬の市場流通状況を継続的に監視しており、模倣試薬を発見した場合は、知的財産権を用いて現地の行政機関や司法機関を通じて迅速かつ徹底的な取り締まりを実施しています。また、現地の新聞に広告を掲載し、医療機関が模倣試薬を使用しないよう注意喚起しています。

お客様満足度の向上

国内外でお客様満足度調査を実施

シスメックスでは米州、EMEA※、アジア・パシフィックの主要国に加え、中国や日本など、さまざまな国や地域でお客様の満足度調査を実施しています。展開している製品やサービスの内容に応じて、それぞれの国や地域で独自の指標を用いています。

シスメックス アメリカは、血球分析装置メーカーを対象としたお客様満足度調査「IMV ServiceTrak」(IMV社主催)で14年連続No.1を獲得しています。また、患者さんや地域コミュニティに貢献したヘルスケア関連事業者に贈られる「GHXcellence Award 2020」を北米市場のトップパフォーマンスとして受賞しました。

その他EMEAやアジア・パシフィックでも定期的にお客様満足度調査を行っており、高い満足度を得られているという調査結果が出ています。

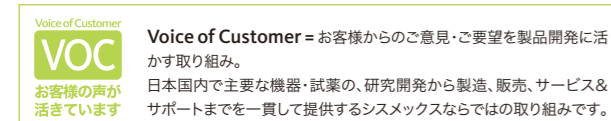


※ 欧州・中東・アフリカ地域

▶ 顧客満足度の調査結果

お客様の声を製品・サービスに活かす取り組み

お客様からいただいたご要望は、VOC (Voice of Customer: お客様の声) チームが集約し、さまざまな角度から分析した後、関係部門へフィードバックされ、新たな製品開発や業務改善に活用されています。2020年度には、国内市場から約18,000件のお客様の声を収集しました。お客様の声から生まれた新たな機能や装備を搭載した装置は、製品カタログにVOCマークを記載しており、高い評価をいただいています。



満足度の高いユーザートレーニングの提供

シスメックスでは、お客様サポートの一環として、機器およびメンテナンスのトレーニングを各地域で実施しています。

広大なエリアに医療機関が点在するシスメックス アメリカでは、お客様がシスメックスの研修施設に向くことなく必要に応じてトレーニングを受けられるオンライントレーニング「Center for learning」をアメリカ、カナダ、ラテンアメリカの各地域で提供しています。2020年度には、これまでのトレーニングシステムに対するお客様の声を反映し、カスタマイズやアクセスのしやすさなどのシステムの改善を行い、約3,000名のユーザー満足度調査では90%以上のユーザーから満足しているまたは非常に満足していると回答を得ました。またこのシステム改善では、シスメックス ヨーロッパのオンラインプログラム開発チームとも連携し、シスメックスヨーロッパが運用する「Sysmex Academy Online」の優れている点を取り入れるとともに、同サイトのコンテンツ共有も可能としました。

このような取り組みから、「Center for learning」とその開発チームは、ブランドホールグループの「Best Customer Training Program」と「Best Learning Team」のカテゴリーでゴールド賞を、さらにライブサイエンストレーナーズ&エデュケーションネットワークの「The Annual LTEN Excellence Awards」を受賞しました。



「Center for learning」を用いたバーチャルトレーニング

役立つ情報の発信

シスメックスでは、当社ウェブサイト「サポートインフォメーション」で、お客様に役立つ情報の発信を行っています。

最新情報をお伝えするメールマガジン配信サービス、コンテンツや閲覧履歴などを管理できるマイページ機能など、お客様によりご活用いただけるよう、継続的に機能の充実を図っています。



ウェブサイト「サポートインフォメーション」

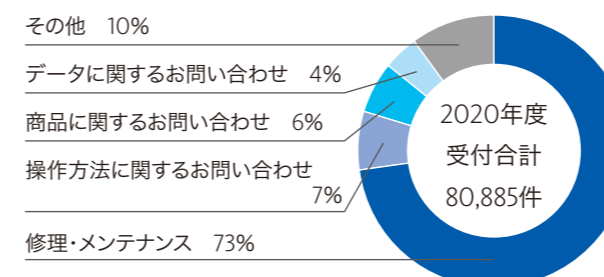
サービス&サポートの充実

お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

シスメックスでは、各地域にカスタマーサポートセンターを設けてお問い合わせに迅速・確実にお応えする体制を整えるとともに、お客様のご要望にいち早く応えるしくみの構築に努めています。

日本では、お客様相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、24時間365日体制(別途契約が必要)でお問い合わせに対応しています。同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。

カスタマーサポートセンターお問い合わせ内容



ITを活用したソリューションの提供

シスメックスでは、オンラインでさまざまなサービス&サポートを提供するネットワークソリューション「Caresphere」を提供しています。「Caresphere」では、病院などの検査装置の精度管理※や自動監視、リアルタイム解析をもとにした故障予測などを行うことで装置の安定稼働を支援します。また、検査業務の効率化と品質管理を支援するアプリケーション・サービスの提供も行っています。

※ 検査装置の測定値を保証するための管理手法。お客様の検査装置が正しく機能しているかを確認すること。

臨床検査の質的向上へISOを活用

近年、臨床検査分野において検査結果の質の向上が強く求められており、世界的に国際規格への関心が高まっています。その一つとして、ISO 15189(臨床検査室の品質と能力に関する要求事項)の認定を取得する臨床検査室も増加しており、すでに認定取得が義務化されている国もあります。

シスメックス株式会社は、臨床検査の校正機関に対する国際規格ISO/IEC 17025およびISO 15195の認定を取得しており、当社が提供している自動血球分析装置に対する校正サービスの品質は、国際的な基準で担保できていることが証明されています。また、この分野での認定取得は国内では初となります。

お客様はISO 15189が要求する校正を実施していることを証明するために、当社が発行する校正証明書をグローバルに認められた認証書として利用することができます。2020年度末時点で、延べ7,200台以上の装置に対して校正証明書を発行しました。また、外部精度管理サービスであるCaresphere XQCは全産業分野で国内初となるISO/IEC 17043(適合性評価-技能試験に対する一般要求事項)の認定を取得しています。

学術活動

シスメックスでは、世界のさまざまな国と地域で最新の臨床検査情報を提供する学術セミナーを開催しています。また、アジアにおいては各国の保健省などの国家機関や主要学会とともに、臨床検査の品質向上を支援するための学術活動を展開しています。

医療従事者向けの学術セミナーを開催

シスメックスでは、医学研究における幅広い領域からテーマを取り上げ、その最新情報の提供と研究から得られた知見を共有する場として1978年より毎年シスメックス学術セミナーを開催しています。2020年度は43回目の年になりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開催を延期しました。

このような状況下、シスメックスでは感染が拡大する環境においてより適した検査体制の構築を目指し、臨床現場における世界の最新情報をお届けすることを目的にSysmex Global Webinar for COVID-19を開催しました。日本をはじめ各国の著名な先生方にそれぞれの地域における新型コロナウイルスの感染状況、そして新たな知見などについてご講演いただきました。本セミナーはEMEA、アメリカ、アジアにおいても同様に開催され、延べ約1,800名の医療従事者の方々にご参加いただきました。

その他のテーマにおいてもオンラインでのセミナーを開催し、延べ約2,000名の医療従事者の方々にご参加いただきました。

このような取り組みを継続することで、医療従事者との信頼関係を構築するとともに、医療の質の向上に貢献していきます。

▶ 臨床検査の標準化・質向上に向けた学術支援活動



Sysmex Global Webinar for COVID-19



EMEA Sysmex Virtual Expo 3D booth

マテリアリティ

責任ある製品・サービスの提供

サプライチェーンマネジメントの強化

サプライチェーンマネジメント

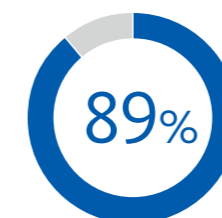
CSR調査の実施

シスメックスでは、取引先におけるCSR活動状況を確認するためのCSR調査を実施しています。既存取引先向けの調査はグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンが開発したCSR調達セルフ・アセスメント・ツールを採用しており、調査項目は人権、労働慣行、腐敗、環境、紛争鉱物など多岐にわたります。当社は分科会メンバーとしてこのツールや、他の各種アウトプット制作に取り組んでいます。新規取引においては、CSRの取り組みに問題がある場合は取引を実施しないことを定めており、CSR調査に加えて経営者との面談も行います。こうした取り組みは海外の取引先についても同様であり、特に児童労働や職場環境については調達担当者が現地を訪れて状況を確認し、問題がないかを確認しています。

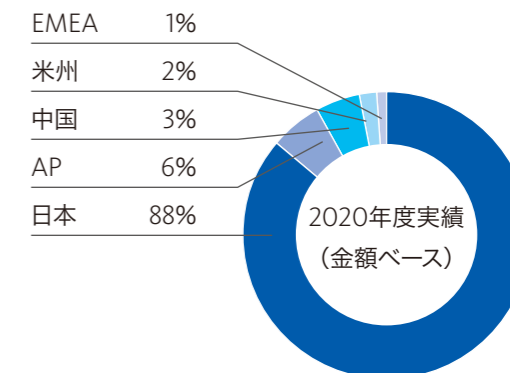
2020年度に実施した一次サプライヤー向けCSR調査の回答率の実績は89%となり、リスク分析の結果、フォローアップを4社に対して行いました。さらに取引先のCSR活動を推進する活動として、ハイリスクと判定された一次サプライヤー13社に対して、二次サプライヤーの管理状況を確認しました。2021年度からは、サステナビリティ目標としてCSR調査回答率を設定し、取り組んでいきます。その他、取引先に対するトレーニング件数も新たにサステナビリティ目標に加え、さらに国内二次サプライヤーのCSR調査回答率、一次サプライヤーの第三者認証取得率についてはモニタリング指標としています。

シスメックス ヨーロッパでは、全ての新規取引先に対して人権・グリーン調達等を含むCSR調査を行っている他、既存取引先に対しても年次評価を行っています。またシスメックス マレーシア、シスメックス 無錫、済南シスメックス、シスメックス 上海などでも、年次の取引先調査を実施し、リスク評価や改善につなげています。

CSR調査回答率(2020年度)



調達地域分析(機器)



- ▶ グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 共通版CSR調査票 「CSR調達 セルフ・アセスメント・ツール・セット」
- ▶ サステナビリティ目標の進捗

調達部品・原材料の品質向上に向けて

シスメックスでは、品質に関する要求事項を明確にした品質保証協定書を提示し、当社の調達方針についてご理解いただいた上で契約を締結しています。納入品の品質確認を行い、是正や予防措置の実施が必要と判断された場合に品質監査を実施しています。

新規の取引先に対しては品質監査を実施し、品質管理が適切に運用されているかどうかを確認しています。また、既存の取引先に対しても定期的な品質評価を行い、品質を維持・向上するための取り組みを行っています。

サプライチェーンでの連携

シスメックスでは、当社の事業の方向性や調達方針をご理解いただいた上で取引ができるよう、取引先との関係強化に努めています。

2020年度は、当社従業員向けに、取引先が持つ独自の技術を紹介する展示会やセミナーを実施し、より良い製品の設計・開発につなげると同時に、相互理解をいっそう深める場としました。また、取引先との協調性のある活動の推進に向けて、品質・安定供給・環境・BCP等に関する情報共有を通じて、取引先とのコミュニケーションを強化しています。



取引先との技術セミナーの様子

調達関連法規制遵守を目指した社内啓発活動

シスメックスでは、電子調達システムを活用し、不当な代金減額や返品防止に努めています。また、全調達部門員を対象として下請法に関する教育を実施し、さらに新規配属者を対象として「調達方針」「CSR」「グリーン調達」「調達リスク」に関する教育を実施しています。

- ▶ [調達方針](#)
- ▶ [グリーン調達基準](#)
- ▶ [Anti-Slavery and Human Trafficking Policy](#)

ストーリー ステークホルダーの声



「当社の製品は、医療を通じて人々の健康や安心を支える必要不可欠なもの。何としても安定供給を継続しなければなりません」そう語るのは、25年にわたって調達業務に携わり、現在はSCM(サプライチェーン・マネジメント)本部で診断薬調達をリードする山縣朋仁。コロナ禍でも調達・生産に関わるさまざまな課題を解決すべく奔走しています。

「試薬の安定供給」という終わりなき使命に挑む
～検査を止めない、コロナ禍におけるシスメックスの取り組み～

なぜ重要か

近年、経済活動のグローバル化、デジタル化の進展や労働人口の減少など外部環境が急激に変化しています。ヘルスケア市場においても異業種からの新規参入など、これまでとは異なるプレイヤーとの競争が激化しています。

シスメックスでは、企業の外部競争力を強化するためには、高度専門人材や次世代リーダーの獲得・育成および魅力ある職場を提供し続けることが重要な課題であると考えています。

方針

シスメックスは、Sysmex Wayの「行動基準」で従業員に対して「多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。」と定めています。これに基づき、人材開発体系を用いた継続的・計画的な能力開発や、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、各種制度の導入などを通じて、多様な人材がグローバルで一体感を持ち、安心して能力を発揮できる企業文化の醸成を目指しています。

▶ 魅力ある職場の実現に関する方針

P26 働きやすい職場環境の確保

P28 ダイバーシティ&インクルージョンの推進

P30 人材の育成

P33 健康増進と労働安全の推進

体制

取締役・専務執行役員が管掌する人事本部にダイバーシティ推進部門、人材開発部門等を設置し、魅力ある職場の実現に取り組んでいます。

目標
(2023年度)



75%

エンゲージメントスコア



0.58

労働災害度数率



0.02

労働災害強度率



17.0%

女性マネジメント比率



40.0時間

平均教育時間

5 ジェンダー平等を
実現しよう



8 働きがいも
経済成長も



SOCIETY

マテリアリティ

魅力ある職場の実現

働きやすい職場環境の確保

多様な働き方の実現

多様な働き方の実現に向けて

シスメックス株式会社では、従業員一人ひとりが働きがいや充実感を感じながら多様なキャリアを形成し、さまざまな家庭環境や地域の状況に応じて就業継続できるように、ワークライフバランスと働きやすさを追求した社内環境の整備を行っています。

働きやすい環境整備の一つとして導入しているフレックスタイム制度に加え、2021年度より「働く時間」と「働く場所・働き方」を自分で選ぶことができるスマートワーク制度を開始しました。5時から22時までを就業可能時間とし、自宅やサテライトオフィスなどで業務内容や個人の生活スタイルにあわせて働くことができます。

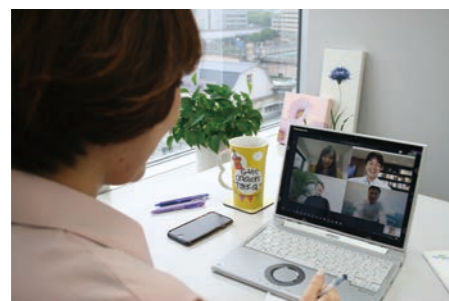
有給休暇取得を推進する施策としては、半日有給休暇制度の導入や、取得推奨日の設定、また有給休暇を取得して旅行やレジャー、カルチャースクールの利用などを行った場合には、福利厚生プログラム「カフェテリアプラン[※]」から補助金が支給されるなど、さまざまな取り組みを行っています。また、2021年度より、有給休暇取得率をサステナビリティ目標として設定し、今後さらなる取得率向上に向けた取り組みを推進していきます。

また、配偶者の海外転勤などの自己都合による休職制度・再雇用制度を導入し、就業継続に向けて幅広く機会を提供しています。

フレックスタイム制度、福利厚生プログラム「カフェテリアプラン」の適用対象者は、正社員に加え契約社員にも拡大しています。

▶ スマートワークの導入(サステナビリティピックス)

※ 会社が毎年、従業員に「カフェテリアポイント」を提供し、自らの意思によって特定のプログラム(育児や介護支援、健康増進、資格取得など)を選択し、利用することができる。



テレワークの様子

仕事と育児の両立支援

シスメックス株式会社では、出産前から育児までに対応した多様な制度を導入しています。不妊治療やつわりに対しての休暇制度をはじめ、配偶者出産時休暇、子の看護休暇などがあります。また、2歳までの育児休業後に中学就学前まで利用できる勤務時間短縮制度および在宅勤務制度を導入しています。育児休業からの復職支援としては、復帰前セミナーの開催や育児休業中の従業員に向けたニュースレターの配付などを行っています。

また、男性育児休業取得率をサステナビリティ目標として設定し、取得率向上のための施策を展開しています。2020年度は、外部講師を招いた「仕事と育児の両立支援 -パパの子育て応援講座-」の開催や、男性が利用できる育児に関連する制度を紹介するガイドブックの発行などを行いました。

研究開発拠点テクノパーク内には、社内託児所「シスメックスキッズパーク」を設置しています。常時保育だけでなく、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事などにより家族での保育が困難なときなどの一時的な利用にも対応しています。

また、「子育てサポート企業」として、厚生労働省から次世代認定マーク(愛称「くるみん」[※])を取得しています。

※ 次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業が「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定(くるみん)を受けることができる。



社内託児所「シスメックスキッズパーク」



次世代認定マーク「くるみん」

その他のワークライフバランス支援制度

介護や社会貢献活動などを支援

シスメックス株式会社では、家族の入院などで付き添いが必要になったときには、短期の介護休業と積立有給休暇を半日単位で最大40日取得できます。また、要介護者・要支援者のご家族のための在宅勤務制度も導入しています。また、1カ月以上の介護休業に対する所得補償制度(月10万円)、介護でキャリアをいったん中断した従業員を再雇用する制度も整備しています。

また、ボランティア休暇、臓器提供などのドナー休暇も導入し、目的に応じて従業員が休暇を取りやすいような支援制度を設けています。

グループ会社での取り組み

シスメックスでは、グループ会社でも働きやすい職場環境の実現に向けてさまざまな取り組みを行っています。

シスメックス ヨーロッパでは、充実した職場環境が認められ、2021年に「Great Place to Work^{※1}」をランキング10位で受賞しました。^{※2}また、「家族にとって優しい職場環境」の認証をドイツのコンサルティング会社berufundfamilie Serviceより取得しました。

シスメックス ドイツ、シスメックストルコでも「Great Place to Work」を受賞し、シスメックス ドイツは8位、シスメックストルコは4位にランキングされました。^{※2}

※1 「働きがい」に関する調査・分析を行う専門調査機関であるGPTWにより発表される企業ランキング。一定の水準に達していると認められた会社や組織を各国の有力なメディアで発表する活動を世界約60カ国で実施している。



※2 シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ: 251-500人規模カテゴリー内、シスメックストルコ: 中規模企業カテゴリー内



▶ その他グループ会社での取り組み

従業員満足度向上に向けた取り組み

シスメックスでは、グループ全従業員を対象とするエンゲージメントサーベイを毎年実施しています^{※1}。結果は各部門にフィードバックされ、改善に向けたアクションプランの立案・実行、モニタリングのPDCAを通じて、従業員エンゲージメント向上に向けた取り組みを行っています。調査のスコアが伸び悩んだ部門に対しては、人事部門が改善に向けたアドバイスを実施しています。

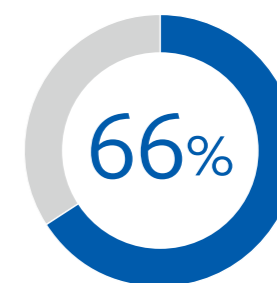
エンゲージメントサーベイの結果は、エンゲージメントスコアとしてサステナビリティ目標に設定し、中長期の人事施策に展開しています。2020年度の結果はグループ全体で66%、前年比6%減となりました^{※2}。新型コロナウイルス感染症の影響による働き方の変化も考慮するとともに、エンゲージメントに相関が高い設問の特定と優先的に取り組む課題の可視化を行い、グループ全従業員の心身の健康、やりがいのある仕事、良好な人間関係が構築できる職場環境を整備し、高い生産性と成果の実現につながるための施策を推進していきます。

※1 2020年度より毎年実施

※2 新型コロナウイルス感染症の影響により、EMEA地域では未実施

▶ サステナビリティ目標の進捗

エンゲージメントスコア(2020年度)



マテリアリティ

魅力ある職場の実現

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

多様な人材の活躍支援

シスメックスでは「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つとして捉え、多様な人材が在籍する「ダイバーシティ」から、多様な人材が働きやすい環境を整備し受容する「ダイバーシティ&インクルージョン」を目指した取り組みを進めています。

シスメックス株式会社では、ダイバーシティ推進部門を設置し、ダイバーシティに関する情報発信や理解浸透活動に加え、ダイバーシティに関する意識調査を実施し、従業員の声を取り入れた施策に展開しています。

採用にあたっては、国籍・人種・性別・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位で採用を実施しています。さらに、国内外の優秀な人材を適時に採用することが可能な環境を整備し、海外大学からの直接採用を実施している他、経営層に外国籍役員や女性役員など多様な人材を登用しています。

2021年3月には、ダイバーシティ経営に取り組む先進的な企業を表彰する「新・ダイバーシティ経営企業100選」（経済産業省）に選定されました。



▶ 経済産業省「新・ダイバーシティ経営企業100選」100選プライム

▶ 採用方針

グループ会社での取り組み

シスメックス アメリカでは、「アファーマティブ・アクションプログラム（差別撤廃プログラム）」に基づいた施策を実行してマイノリティ（少数派）に対する偏見や差別の解消を目指しています。また、シスメックス アジア・パシフィックでは、2008年から公正な雇用慣行に関するTAFEP*の誓約書に署名し、従業員に研修を実施しています。

* 公平な雇用を推進するために設置された、政労使代表からなる機関。シンガポール国家経営者連盟（SNEF）、全国労働組合会議（NTUC）の代表が共同委員長を務める。

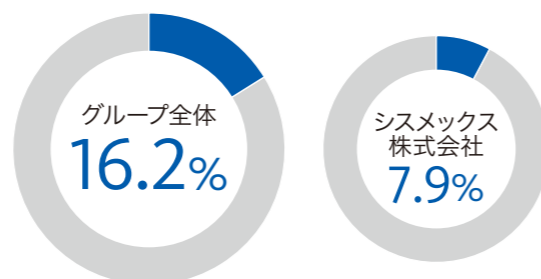
女性活躍支援

シスメックス株式会社は、仕事と育児の両立を支援する制度の導入など、働きやすい職場環境を整えるとともに、女性リーダーの育成にも取り組んでいます。2020年度には、女性活躍推進法に基づく「女性活躍推進行動計画」を新たに制定し、2024年度までに女性マネジメント比率を15%以上、年間労働時間を1950時間未満にするという目標*を設定しました。

また、サステナビリティ目標として、グループの女性マネジメント比率、男性従業員の育児休業取得率を設定し、さらなる女性活躍推進施策を展開していきます。2020年度の取り組みとしては、アンコンシャスバイアス教育や、キャリア動機付け支援を行う研修プログラムの提供、新任役職者を対象に女性活躍推進の理解促進の研修プログラムの提供などを行いました。

* 対象：シスメックス株式会社

女性マネジメント比率(2020年度)



▶ 女性活躍推進行動計画(シスメックス株式会社)

▶ 女性活躍推進法(厚生労働省)



女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」最高位の「3段階目」を取得

障がい者支援

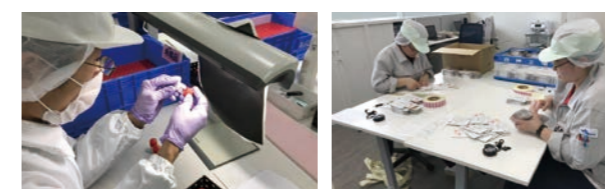
シスメックスでは、身体、知的、精神に障がいを持つ方々が個々の特性にあわせて活躍できる業務や職場環境を整備し、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して働く喜びを感じながら、いきいきと活躍し、ともに成長できる、笑顔あふれる職場を目指しています。

特例子会社*であるシスメックスハーモニーでは、2017年の設立から業務の種類や規模が拡大し、従業員数23名の会社に成長しました。主な業務は、工場での検品作業や、容器のラベル添付など試薬や機器の製造補助を担っています。また、従業員一人ひとりの特性を踏まえた業務の割り振りや、上司との定期的な面談による密なコミュニケーションなどにより、離職率はゼロを継続しています。(2021年3月時点)

シスメックス ヨーロッパにおいても、障がい者の自立支援に取り組んでいる団体と連携し、ドイツ試薬生産工場の製造ラインでの梱包作業などを障がいを持つ方々に委託しています。作業の方々と業務の目的を共有するとともに、定期的なトレーニングと従業員によるサポートを実施することで、高いモチベーションを維持して作業に取り組んでいただいています。

また2021年度より、国内グループ会社の障がい者雇用率をサステナビリティ目標として設定し、多様な人材が活躍できる職場を目指していきます。

* 障がい者の雇用のために特別の配慮をしていると公共職業安定所長から認定を受けた子会社。親会社の就業規則とは別に、障がい者の労働能力や就業条件を配慮した就業規則や設備環境を整備でき、障がい者の職域拡大を図ることが容易になる。



試薬の検品作業、試薬容器のラベル添付作業の様子(シスメックスハーモニー)

シニア人材

シスメックス株式会社では、2021年3月より定年を60歳から65歳に変更し*、短時間勤務や副業・兼業も可能となりました。また65歳の定年退職後、シニア嘱託として最高70歳まで働くことができます。

また、シニア人材のキャリア開発支援として、今後のキャリ

アを考える上で必要な基本知識と考え方の理解を促進する「キャリア開発サポートプログラム」を開始しました。eラーニング、集合研修、個別コンサルティングを組み合わせることで、キャリアを自律的に考え、具体的に行動変容ができるようサポートするものです。

* 65歳までの1歳刻みで本人が選択できる。

性的マイノリティへの理解と対応

シスメックス株式会社では、2020年度より、パートナーシップ登録制度を導入し、同性のパートナーを戸籍上の配偶者と同等に扱うことができるようになりました。

イントラネット専用サイトでは、性的マイノリティへの知識を深める情報を発信し理解の浸透を進めています。2020年度には、「LGBTQ*1と多様性」をテーマとしたダイバーシティ・ラウンドテーブル*2の開催や、LGBTQに対する理解者・支援者であることを表明するアライステッカーを希望者に配付するなどの活動を行っています。

*1 レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング・クィアの頭文字を取った性的マイノリティの総称

*2 仕事とプライベートの両立や異文化理解など幅広いテーマについての意見交換や、部門を超えたコミュニティづくりの場として開催されている。

ダイバーシティ教育

シスメックス株式会社では、社内情報誌「ダイバーシティ通信」を毎月発行し、従業員への情報共有や理解促進を図っています。2020年度は、ダイバーシティ&インクルージョン、LGBTQ、障がい者支援などをテーマにしたダイバーシティ・ラウンドテーブルの開催や、無意識の偏見に気づき対処するためのアンコンシャスバイアス研修、多様な方々へ向き合うためのマインドとアクションを学ぶユニバーサルマナーについてのセミナーなどを実施しました。



ダイバーシティ通信

マテリアリティ

魅力ある職場の実現

人材の育成

自律的なキャリア形成

人材マネジメントの考え方

シスメックスでは、多様な人材が一体感を持ち、安心して能力発揮できる企業文化の醸成を目指しています。

2020年4月より、各自の能力を等級化した「職能型」の人事制度を一新し、役割や職務内容に基づき等級を決める「職務型(ジョブ型)」の人事制度の導入*を開始しました。これまでの長期雇用を前提とした育成に重きを置いた考え方を継承しつつ、高い企業成長力を持続するために多様な人材が活躍できる環境を整備していきます。

また、グループ全ての主要ポジションに対して、共通のHRポリシーに基づいた等級制度、評価制度、人材育成を展開することで、グローバルで統一した人材マネジメントを実現します。加えて、より外部競争力のある報酬制度へと転換し、グローバルで活躍できる優秀な人材の獲得・育成を通じて、持続的な企業成長を実現します。

※ 2020年度より管理職層を対象に導入を開始し、順次グローバルに展開予定

グローバルHRポリシーの位置づけ



▶ グローバルHRポリシー

能力・成果に基づく公平な人事評価

シスメックスでは、成果のみの評価ではなく、成果発揮にいたるプロセスやリーダーシップの発揮に応じてメリハリのある評価を行っています。また、上司と部下の間で定期的な1 on 1ミーティングや業務単位でのフィードバックを実施することで、公平かつ納得性のある人事評価を目指しています。

管理職層においては、各ポジションに求められる役割に応じた市場競争力のある報酬設定とし、非管理職層については、職掌・資格等級に応じた適切な処遇を実施しており、性別による基本給与の差はありません。グローバルコンプライアンスコード「8.人権の尊重と安全・衛生の向上」では、「各国・地域の労働関連法令等を遵守」することを掲げ、各地域の最低賃金、生活水準を満たす給与体系をとっています。

社員のキャリア設計をサポート

シスメックス株式会社では、全社員を対象とした「自己申告制度」を導入しています。年に一度、個々の社員に対して中長期のキャリア、職種、海外勤務についての希望をヒアリングすることで、各自にキャリアの方向性とライフプランについて考える機会を提供するとともに、申告内容を能力開発や人材配置に活用しています。

管理職層については、職務型(ジョブ型)の人事制度の導入に伴い、各ポジションの役割や求められるスキルを定義した職務記述書(Job Description)を整備するとともに、全ポジションの職務記述書を公開することで、ポジションに求められる要件を明確にし、直線的なキャリアパスを描けるようなくみを導入しています。

また、キャリアに悩む従業員に対しては、「キャリア開発サポートプログラム」を提供しています。インプット(eラーニング)、アウトプット(集合研修)、個別キャリアコンサルティングを組み合わせることで、キャリアを自律的に考え、具体的に行動変容ができるようサポートする研修で、2020年度は46名が参加し、総合満足度は80%でした。

モチベーションアップにつながる社内表彰制度を導入

シスメックスでは、グループで最も貢献した個人および組織・グループをたたえる表彰制度「グループCEOアワード」を導入し、毎年、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践した個人1名、グループ1組を選出してその功績をたたえ、全社で共有しています。

また、研究開発者のモチベーション向上と知的財産に対する意識を高めることを目的とした「特許大賞・優秀特許賞」「パテントマイスター」「出願記念賞」、さらに品質改善に関する成果を表彰する「品質アワード」を設けています。

契約社員・派遣社員などの登用・待遇改善

シスメックス株式会社は、契約社員や派遣社員の正社員登用にも積極的に取り組んでいます。契約期間が限られている有期雇用者に対し、公平に登用機会を提供することを社内規程において明文化するとともに、イントラネットなどで周知徹底を図っています。

▶ 多様な働き方の実現に向けて

人材育成

グローバル人材育成の推進

シスメックスでは、グループ共通の「グローバル人材開発体系」に基づき、事業活動および職場での一体感の醸成や次世代の人材育成、グループ内のネットワーク強化、異文化の相互理解のためのさまざまな施策に取り組んでいます。

4つのコンセプト「研修と評価と仕事(成果発揮)を接続」「シスメックスグループのグローバル化の促進」「継続的な人材開発投資」「人を育て、人が育つ会社」に基づき、選抜型研修、階層型研修、自律選択型研修を研修体系の軸とした計画的・段階的な人材育成に取り組んでいます。

▶ 研修体系の3つの軸

ニューノーマル時代の人材育成プログラム

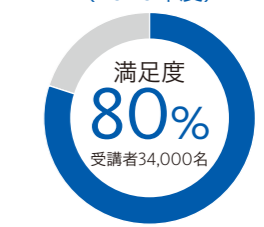
シスメックスでは、多様な働き方と新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた、ニューノーマル時代の人材育成プログラム導入を進めています。具体的には、オンライン受講を可能とするシステム構築とともに、オンラインに対応したプログラム内容の充実化を図っています。また、多様な働き方を推進するために導入したスマートワークでは、勤務時間内の1日15分の自己学習を推奨しています。これらのことから、2020年度の研修受講者延べ人数は約34,000名となり、オンライン受講率は92%でした*。また、受講者アンケートでは約80%がオンラインプログラムに好意的な回答をしました。

また、職務型(ジョブ型)の人事制度の導入により、個々人のポジションに見合ったスキルやコンピテンシーを強化する研修を充実させました。手上げ式の研修プログラムSysmex Collegeでは、対象とするコンピテンシーを明確にしたビジネス実務のプログラムに加え、社内講師による知識やスキル・ノウハウを伝授するナレッジプログラムも提供しています。2020年度は23の講座が開催され、約2,700名が受講しました。

また、新たに導入した学習管理システムでは、上司が部下の学習状況を確認し、キャリア開発のアドバイスや対話する機会を提供しています。

※ 対象:シスメックス株式会社

研修受講者アンケート
(2020年度)



研修体系の3つの軸

| 研修区分 | 目的 | 2020年度実績 |
|-----------------------------|--|--|
| 選抜型研修 | ・グローバルリーダーの育成 ・将来的な経営人材の育成 | 次世代リーダーとなり得る人材の早期発掘・戦力化を図るため、受講生がストレッチ課題(修羅場体験)に取り組み、ビジョン構想力・戦略策定力の習得および実践力を高める研修を実施 受講期間:半年間、受講者数:7名 |
| 階層型研修 | ・企業理念、当社歴史の理解深化 ・階層ごとに最低限必要とするマネジメントや課題解決などの知識・スキルの習得 ・部門間コミュニケーションの促進 | 講座数:26、受講者数:約4,400名 |
| 自律選択型研修 (Sysmex College) | ・業務遂行における実践的な知識・ノウハウ・スキルの習得 ・ビジネス・マネジメント各種知識の習得 | 戦略的思考、チームビルディング、対人折衝、問題解決力などのコンピテンシー向上のためのビジネス実務講座に加え、社内講師によるナレッジ講座の実施 講座数:30、受講者数:約2,700名 |

シスメックス アメリカの研修プログラム 「Sysmex University」が人材開発に関する 国際的な賞を受賞

シスメックス アメリカでは、アメリカ、カナダ、ラテンアメリカの全従業員を対象とした研修プログラム「Sysmex University」を導入しています。

Sysmex Universityでは、リーダーシップスキルをはじめとしたビジネススキル、専門スキルに関する多くのプログラムを提供しています。2020年、シスメックス アメリカの人材開発チームは、プログラム内容や学習ニーズ、受講者の満足度調査などの分析を行い、ユーザビリティ向上のためのシステム改善とプログラムの充実化を図りました。その結果、受講率の向上と受講者のコンピテンシー・スキルの向上につながることができました。それらのことが認められ、世界的なりサーチ会社であるブランドンホールグループ*1が主催するラーニングアワードにおいて、事業戦略/技術革新分野で金賞、研修マネジメント技術において銀賞を受賞しました。また、アメリカの人材育成協会(ATD)*2が主催する2021年 Best Awardを受賞しました。



※1 ▶ <https://www.brandonhall.com/>

※2 ▶ <https://www.td.org/about>

▶ [その他主な人材育成プログラム](#)

マテリアリティ

魅力ある職場の実現

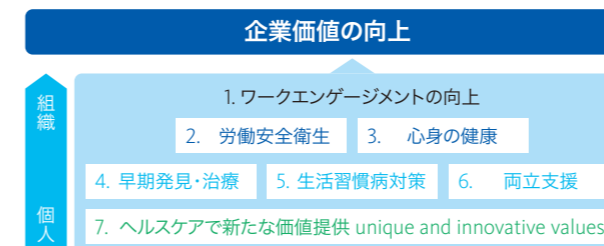
健康増進と労働安全の推進

健康経営宣言

シスメックス健康経営宣言の策定

シスメックスは、グループ企業理念を実践する基盤となる従業員が、心身ともに充実した人生を歩むために、経営課題の一つとして健康経営を推進してきました。これまで行ってきた安全衛生活動・健康増進・両立支援などの施策展開をさらに加速させるため、2020年4月に「健康経営宣言」を策定しました。「健康経営宣言」では、労働安全衛生、心身の健康などの重要な課題(健康経営マテリアリティ)を設定し、健康増進施策や、多様性が尊重される職場環境の整備を継続的に展開し、より魅力ある職場づくりの実現を目指します。

健康経営マテリアリティ



▶ [シスメックス健康経営宣言](#)

健康増進に向けた取り組み

従業員の健康増進に向けた取り組み

シスメックス株式会社では、定期健康診断に加え、人間ドックや女性特有のがん検診を実施しています。また、二次検査受診率向上のため、2020年度より受診費用の補助金*を増額しました。また継続就業支援として、長期・断続的な受診や治療を必要とする従業員には在宅勤務を適応しています。感染性物質を取り扱う業務を行う従事者に対しては、法定の特殊健康診断に加え、B型・C型肝炎検査を含む自社独自の健康診断を年2回実施するなど、疾病の早期発見・早期治療に努めています。

また、厚生労働省の「がん対策推進企業アクション」「知って、肝炎プロジェクト」のパートナー企業に登録するとともに、「兵庫県がん検診等受診率向上推進協定」を締結し、疾病に関する啓蒙活動と受診率向上のための活動を行っています。

受動喫煙対策では、国内グループ会社の自社保有事業所の喫煙場所を撤廃するとともに(2021年3月末)、禁煙外来の受診費用や関連セミナー受講費用の補助*などを行っています。

※ 福利厚生プログラム「カフェテリアプラン」で受診費用や健康関連セミナー受講費用などの補助金を従業員自身で選択し申請することができる。

▶ [がん対策推進企業アクション](#)

▶ [知って、肝炎プロジェクト](#)

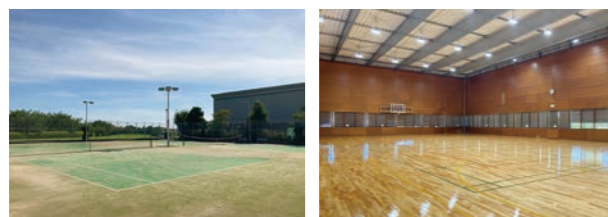


メンタルヘルスの取り組み

シスメックス株式会社では、従業員のメンタルチェックやハラスメントに関する状況把握を行う「ココロの健康診断」を年1回実施し、経年的に結果を把握し、職場改善を図っています。また、産業医や保健師と面談できる健康相談窓口の設置に加え、メンタルヘルスにおいて従業員を支援するプログラム(EAP)を導入し、社外専門家にいつでも相談できる体制を整えています。

より生き活きと健やかに過ごすための取り組み

シスメックス株式会社では、健康維持のための福利厚生施設として、ソリューションセンターの敷地内にグラウンドやテニスコート、フィットネス設備を備えた体育館などを設けています。また、従業員自身に健康への関心を持ってもらうためのイベント・セミナーの開催、スポーツ施設利用補助などの健康増進プログラムが含まれる福利厚生プログラム「カフェテリアプラン」の提供、社員食堂でのヘルシーメニューの提供などを行っています。また、健康保険組合とのコラボヘルスとして、ウォーキングイベントや勤務時間内の特定保健指導の面談も実施しています。



テニスコート、体育館(ソリューションセンター)

健康経営優良法人の認定

シスメックス株式会社では、健康経営に向けたさまざまな取り組みや国内グループ会社を含む活動体制が評価され、2021年3月に、経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人」の5回目の認定を受けました。



▶ グループ会社での取り組み

労働安全衛生の体制と推進

労働安全衛生の推進体制

シスメックスでは、従業員の安全衛生を確保する指針として「安全衛生規程」を定め、安心して働ける職場づくりに努めています。国内グループ会社を対象とした中央安全衛生委員会を設置し、安全衛生・健康管理体制の強化・充実を図るための方針・目標を策定する他、各事業所の安全管理状況の把握、改善すべき施策の検討を行っています。また、労働災害度率と労働災害強度率をサステナビリティ目標として設定し、進捗状況を半期ごとに取締役会に報告しています。

労働安全衛生推進の取り組み

シスメックスでは、2020年度の安全衛生目標に「労働災害(通勤・社用車事故含む)における休業4日以上が1件以下」「生産性向上を目指した健康経営の推進」を掲げ、各社・各事業所の安全衛生委員会が中心となって取り組みました。各事業所で定期的に行われる安全衛生委員会では、職場巡回で把握したリスクの排除など、リスクアセスメントの考えに基づき、短期から長期の視点で未然に災害を防止する対策に取り組んでいます。

また、事故や急病人の発生時の適切な応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などに関する安全教育や、大規模災害を想定した総合消防訓練、AED使用方法の研修、市民救急救命士講習なども定期的に行っています。特に災害時における迅速な従業員の安全確保と安否確認、事業所などの被災や製品の供給状況、お客様の被災に関する情報の共有など、初動対応に関する訓練を適宜実施しています。

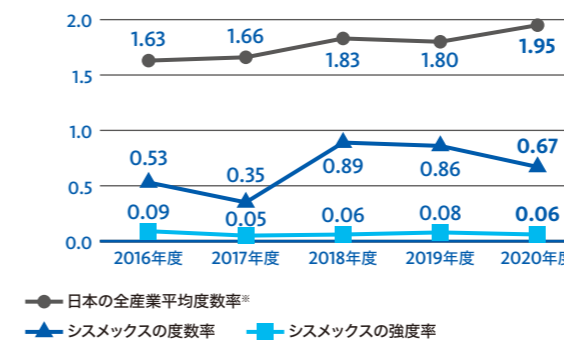
2020年度は、工場でのけがによる休業などにより労働災害度率は0.67*となりました。引き続き、安全衛生委員会の活動に加え、KYT(危険・予測トレーニング)活動や、外部講師による教育訓練などの対策を実施していきます。

シスメックス ブラジルでは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な規格であるISO 45001の認証を取得しています。

※ 対象: シスメックス株式会社

▶ 新型コロナウイルス感染症に関する従業員への取り組み

労働災害度率/強度率(シスメックス株式会社)



注: 労働災害度率: 延べ実労働100万時間あたりの死者数の割合
労働災害強度率: 延べ実労働1,000時間あたりの労損失日数の割合
※ 出典: 厚生労働省「労働災害動向調査」


過重労働の防止

過重労働は心身の健康を妨げる要因となることから、長時間労働の防止にも取り組んでいます。関連法令の遵守とともに、厚生労働省の指針よりも厳しい社内基準を設け、労働時間が社内基準を上回った場合は、上長への連絡と自己チェック表の提出を求めて業務改善を図ります。また必要に応じて産業医との面談の機会を設けています。労働時間管理については、ICカードによる入退室管理とパソコンの起動と終了の時刻ログから労働時間を把握しています。

社会貢献活動

社会貢献活動

シスメックスは、Sysmex Wayの行動基準の「社会に対して」および「社会貢献方針」に基づいた活動を行うことにより、豊かな健康社会づくりと生き生きとした地域社会づくりに貢献していきます。

- ▶ 企業理念および行動基準
- ▶ 社会貢献方針 

グループ一丸となった医療への貢献

シスメックスは、2018年に創立50周年を迎えたことを機に、社会貢献方針に基づいたグローバル統一テーマ「より健康な社会を目指す」を掲げ、グループ全体で一体感を持った社会貢献活動を推進しています。2020年度は6月から9月に「Sysmex Gives Back Challenge」、10月から1月に「Sysmex Gives Back Day」と、2度のグループ統一プログラムを実施しました。これらの活動では、献血活動・環境活動に加え、新型コロナウイルス感染症に対する社会貢献活動などを行いました。両イベントを通じて世界中で延べ2,800名以上の従業員が活動に参画しました。今後もグループ一丸となって豊かな健康社会の実現に貢献していきます。

新型コロナウイルス感染症への取り組み

シスメックスは、新型コロナウイルス感染症対策に向けた支援として「こうべ医療者応援ファンド」へ3,000万円の寄付を行うとともに、社会貢献方針に基づき、世界各地で新型コロナウイルス感染症に対する支援活動を行ってきました。

医療機関に対しては、安心して医療活動が行えるように、最新の学術情報の提供に加え、マスクや防護服・保護ゴーグル・非接触体温計などを寄贈しました。

また、試薬生産拠点を置く米国やブラジルなどの地域社会に対しては、入手困難となっていた消毒液を試薬生産工場で作成し、医療機関だけでなく、警察署や地域の慈善団体などに寄贈しました。

さらにグループ統一プログラム「Sysmex Gives Back Challenge」、「Sysmex Gives Back Day」を通じて、医療従事者や地域コミュニティへの食料や物資の支援、マスクや消毒液の寄贈といった活動を行っている他、一人でも多くの患者さんに輸血用血液が届けられるよう、グループ一体となり献血活動も継続しています。



手作りマスクを寄付
(シスメックス アメリカ)

消毒液の寄付
(シスメックス マレーシア)

献血活動を通じた医療への貢献

シスメックス株式会社は、2014年度から「献血サポーター企業」に登録し、積極的な献血活動を行っています。

世界各地でも定期的な献血活動を行っており、2020年度はグループ全体で約500名の従業員が献血に参加しました。



シスメックス オーストラリア

シスメックス パルテック

社会貢献ポイント制度

シスメックスは、社会貢献方針で従業員のボランティア活動の支援を表明するとともに、ボランティア休暇制度を設けて制度面でも支援するなど、従業員の主体的なボランティア活動を奨励しています。

活動を促進するため、従業員が地域のボランティア活動や、会社主催の社会貢献活動に参加するとポイントが付与される「社会貢献ポイント制度」を設け、ポイントに応じて会社が寄付を実施しています。2020年度はこの制度に国内グループ従業員の27%、1,053名が参加し、その結果、約106万円を寄付することができました。

国内グループ従業員1,053名が参画し、
約106万円を寄付

新型コロナウイルス緊急募金:マスク・衛生用品等の寄付(ユニセフ)

小児がんを抱える子どもと家族の支援(ジャパンハート)

また、社会貢献ポイント制度の寄付先の一つであるNPO法人ジャパンハートの「スマイルすまいるプロジェクト」に賛同し、従業員のボランティア活動を通じた小児がん患者とご家族への支援も行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響でイベントの開催はできませんでしたが、子どもたちへのメッセージカード制作を通じて支援を継続しました。

各事業所では従業員が企画した社会貢献活動を行っており、古本や古着などをNPO法人などへ寄付する活動などを実施しました。

▶ スマイルすまいるプロジェクト 

©UNICEF/UNI1355865/Panjwan 子どもたちへのメッセージカード制作
提供:(公財)日本ユニセフ協会

ハイチのNPO団体にヘマトロジー分野の検査装置を寄贈

シスメックス アメリカでは、さまざまな理由から保護者のもとを離れて暮らす子どもたちを保護・支援するNPO団体 Nuestros Pequeños Hermanosに、ヘマトロジー(血球計数検査)分野の装置を寄贈しました。現地の検査技師に対するトレーニングも実施して、装置を問題なく使用いただけるよう支援するなど、現地での医療アクセス向上に貢献しています。



寄贈した装置を使用する様子

「シスメックスの森」を通じた
生物多様性保全への貢献

シスメックスでは、兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」(17ヘクタール)のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名付け、従業員ボランティアによる間伐作業などを行い「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。



シスメックスの森(森林整備活動)

「シスメックスの森」での取り組み

| 取り組み | 内容 |
|---------|---|
| 生物多様性保全 | <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種の保全 (カスミサンショウウオ^{※1}の生育環境の保全、アサギマダラ^{※2}を呼びよせるための植物の植え付けなど) ・希少な野生植物の保存 (ササユリの栽培による種の回復、キンラン^{※3}生息地の保護) |
| 教育・啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境省・農林水産省・国土交通省が主唱する「グリーンウェイブ2020」(森林や樹木等とのふれあいを通じ、生物多様性の理解や普及啓発を促すキャンペーン)に参加登録 |

※1 環境省レッドリスト2020で絶滅危惧II類(VU)に指定されている小型のサンショウウオ。

※2 その多くが春に日本に飛来し、秋には台湾など南方に約2,000kmもの長距離を移動する珍しい渡り蝶。千葉県でレッドリストで準絶滅危惧種に指定されている。

※3 環境省レッドリスト2020で絶滅危惧II類(VU)に指定されている地生ランの一種。

▶ その他各地域での社会貢献活動


なぜ重要か

気候変動の緩和をはじめ、水資源・鉱物資源などの資源利用、生物多様性の保全など、地球環境の持続可能性は喫緊の課題となっています。また、パリ協定の発効や「持続可能な開発目標 (SDGs)」などにも見られるように、環境問題は全世界で取り組むべき重要課題であり、とりわけ企業が果たす役割への期待が高まっています。

シスメックスはグローバルに事業を展開する企業として、深刻化する地球環境問題への対応を優先的に取り組むべき課題の一つと認識しています。気候変動による大規模な自然災害などは原料調達や製造機能の停止など経営上の重要なリスクと捉えるとともに、環境への配慮は地域社会との共生やステークホルダーからの信頼確保につながると考えています。

方針

シスメックスは「ヘルスケア分野に関わる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献」という「環境方針」に基づき、長期的な環境マネジメントの指針として、2025年度を最終年度とする「シスメックス・エコビジョン2025」を策定し、製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体における環境保全を推進しています。

▶ 環境方針 

P40 環境マネジメント

P43 製品ライフサイクルにおける環境配慮

P47 事業所活動における環境負荷低減

体制

取締役社長により任命された環境マネジメントオフィサー（上席執行役員）の統括・管理の下、環境管理委員会を中心にグループで環境マネジメントに取り組んでいます。

目標（2025年度）

CO₂ 排出量の削減率



-15% -50% -15%

機器製品使用時

事業活動

出荷物流

水消費量の削減率



-15% -15%

機器製品使用時

事業活動

リサイクル率



93% 以上

事業活動



ENVIRONMENT

マテリアリティ

環境への配慮

環境マネジメント

シスメックス・エコビジョン2025

「シスメックス・エコビジョン2025」の制定

シスメックスでは2018年5月、「シスメックスグループ長期経営目標」の策定にあわせて、「シスメックス・エコビジョン2025」を制定しました。これは、シスメックスが2025年に向けて目指す長期環境ビジョンであり、これまで以上に、開発・生産・販売・サービス&サポートなどの製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体の環境保全を推進するものです。

長期環境ビジョン

製品・サービスのライフサイクル、および事業活動のバリューチェーンにおける、2025年度までの環境目標を設定し、地球環境の保全に取り組みます。

1. CO₂排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献します。
2. 資源消費の削減と資源循環を推進し、地球資源の持続可能性向上に貢献します。
3. 事業活動と自然環境のつながりを認識し、生物多様性の保全に貢献します。

▶ シスメックス・エコビジョンの進捗

▶ 環境データ詳細

長期環境目標(2025年度)



※ 基準年度を2016年度とする原単位目標

TCFD提言への対応

近年、気候変動が与える影響は、金融市場において大きなリスクとなってきました。2015年12月に金融システムの安定化を図る国際組織、金融安定理事会が「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)」を立ち上げ、2017年6月には気候関連の「リスク」と「機会」が企業の財務に及ぼす影響を開示するよう、最終提言を行っています。

2021年1月、シスメックスはTCFDの提言に賛同し、そのフレームワークに基づき、以下の情報について整理を行いました。

1. ガバナンス

▶ グループ環境マネジメント体制

2. リスクマネジメント

環境マネジメントシステムの中で事業活動が環境に与える影響を、「法令遵守」と「環境への影響」の2つの観点から毎年評価しています。また、気候変動に関してTCFDの提言を踏まえ、気候関連のリスクと機会のアセスメントを行い、環境管理委員会および取締役を含む経営会議で議論しました。これらを通じて、リスクの低減および事業機会の創出に取り組んでいます。

また、リスクマネジメント体制の中で、環境や気候変動以外のリスクも含め包括的なリスクアセスメントを2年に1回実施しています。

▶ リスクマネジメント体制

3. リスクと機会

TCFD提言のフレームワークに基づき、取締役を含む経営会議で気候変動がもたらすリスクと機会を特定しています。2020年12月には、内容の見直しを実施しました。

| リスク | シナリオ | 財務影響 | | 取り組み |
|------------|---|------|-----|---|
| | | 2°C | 4°C | |
| 移行 リスク | ・法規制の変化により、特定の物質や技術の使用が禁止され、製品供給が困難または高額な代替品が必要となる | H | L | ・各地域の統括拠点を中心に品質保証・薬事部門を設置し、専任スタッフが各国の法規制に対応 |
| | ・プラスチックの使用量削減を含めた環境負荷の低い素材や技術への移行に伴い研究開発コストや設備投資が増加する | M | L | ・病院検査室の要求や市場・業界動向を踏まえた製品・技術開発 |
| | ・エネルギーコストや原材料コストが増大する | M | L | ・省エネルギー対策、設備の効率化 ・再生可能エネルギーの導入 |
| | ・顧客の環境意識の変化により、当社製品の環境負荷に対して批判が生じ需要が低下する | L | L | ・顧客の声を製品開発や品質改善に活用するしくみ(VOC:Voice of Customer)の構築 |
| 物理的 リスク | ・大規模な自然災害により製品やサービスの安定的な供給が困難になる | M | H | ・事業継続計画(BCP)を策定し、原材料の調達先や供給体制、輸送ルートなどリスクの分散化を実施 |
| | ・干ばつに伴う地域的な水不足により製品の安定的な供給が困難になる | L | M | ・水リスクを定期的に監視するとともに、事業継続計画(BCP)を策定し、リスクを低減 |

| 機会 | シナリオ | 財務影響 | | 取り組み |
|-------------|---|------|-----|--|
| | | 2°C | 4°C | |
| 資源の効率 | ・より効率的な輸送手段の利用やIoT活用によりオペレーションが最適化される ・梱包や製品設計の見直しにより、原材料コストや廃棄物量が低下する | M | L | ・物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直し ・リモートサービスによるCO ₂ 削減の推進 ・梱包の資材や形態の見直しによる省資源化 |
| エネルギー源 | ・省エネルギー化によるエネルギーコストの削減や低炭素エネルギーへのシフトによる社会的評価が向上する | M | L | ・省エネルギー対策、設備の効率化 ・再生可能エネルギーの導入 |
| 製品およびサービス | ・顧客の購入意識の変化により、環境配慮製品の購入が促進される ・長期的な疾患動向の変化により新たな検査機会が創出され、検査需要が拡大する | M | M | ・環境に配慮した製品開発 ・マラリアなどの感染症対策に寄与する製品開発 |
| 市場 | ・気候変動への取り組みと情報開示により金融市場で評価・期待が高まる | M | L | ・TCFD対応をはじめ、シスメックスサステナビリティデータブック等による環境に関する情報開示 |
| レジリエンス(回復力) | ・自然災害発生時における製品・サービスの安定供給により、顧客からの信頼が向上する | L | M | ・グローバルな供給体制、原材料の複数調達によるバックアップ体制の構築 |

※ シスメックスグループの全事業(サプライチェーン含む)を対象として、気候変動に対してより厳しい対策をとる2°Cシナリオ、現状を上回る温暖化対策をとらない4°Cシナリオについて分析。特定したリスクと機会が及ぼす財務影響は、2030年度の営業利益に与える影響を基準として3段階(H:High, M:Middle, L:Low)で評価した。

環境マネジメントシステム

グループ環境マネジメント体制

シスメックスは、グループ各社の責任と役割を明確化した「グローバル環境マネジメント規程」を制定し、取締役社長により任命された環境マネジメントオフィサー（上席執行役員）の統括・管理の下、環境管理委員会を中心にグループで環境マネジメントに取り組んでいます。環境目標はグループ経営計画の一部に統合し、サステナビリティ目標として進捗状況を半期ごとに取締役会に報告しています。

ISO 14001認証の取得を推進

シスメックスでは、グループの主要な関係会社において環境マネジメントシステムの国際規格ISO 14001の取得を進めています。

2021年3月末現在、グループ17社で認証を取得し、認証取得拠点の売上比率は67%となっています。

また、一部では活動の進捗状況や問題点をグループとして把握しマネジメント活動を強化していくために環境活動を一元化し、シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスRA、シスメックスメディカの4社9拠点で、統合認証を取得しています。この結果、環境経営に関する情報を体系的に共有することが可能となりました。

ISO 14001 認証取得状況

| 地域 | 会社名 |
|------|---|
| 日本 | シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスメディカ、シスメックスRA |
| 米州 | シスメックス アメリカ、シスメックス リージョン・アメリカ、シスメックス ブラジル |
| EMEA | シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス フランス、シスメックス スペイン |
| 中国 | シスメックス 無錫、済南シスメックス |
| AP | シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス インディア、シスメックス ニュージーランド、シスメックス オーストラリア |



▶ 詳細は www.tuv.com の ID 0910589004 を参照。☞
(活動およびサイトの適用範囲は規格により異なります。)

環境監査の実施

ISO 14001認証を取得している各拠点では、環境マネジメントシステムの要求事項に従って、「内部環境監査」および「外部環境審査」を定期的実施しています。2020年度は、認証統合している国内グループ拠点の内部環境監査、外部環境審査のいずれも不適合は0件でした。

環境教育

環境教育・訓練の実施

シスメックスでは、グループの環境活動やそれぞれの業務がどのように環境に影響を及ぼすかを周知するための全従業員向け一般教育と、各部門に設定した環境マネジメントシステム推進責任者および推進担当者に対する実務知識習得のための専門教育を実施しています。さらに、各部門で必要に応じて専門教育や緊急事態訓練なども行っています。

2020年度は、ISO統合認証の適合事業所に所属する全従業員と、海外拠点の環境担当者向けにeラーニングによる環境一般教育を行いました。また、事業所担当者および製品ライフサイクル部門の担当者向けの法規制セミナーを実施しました。

マテリアリティ

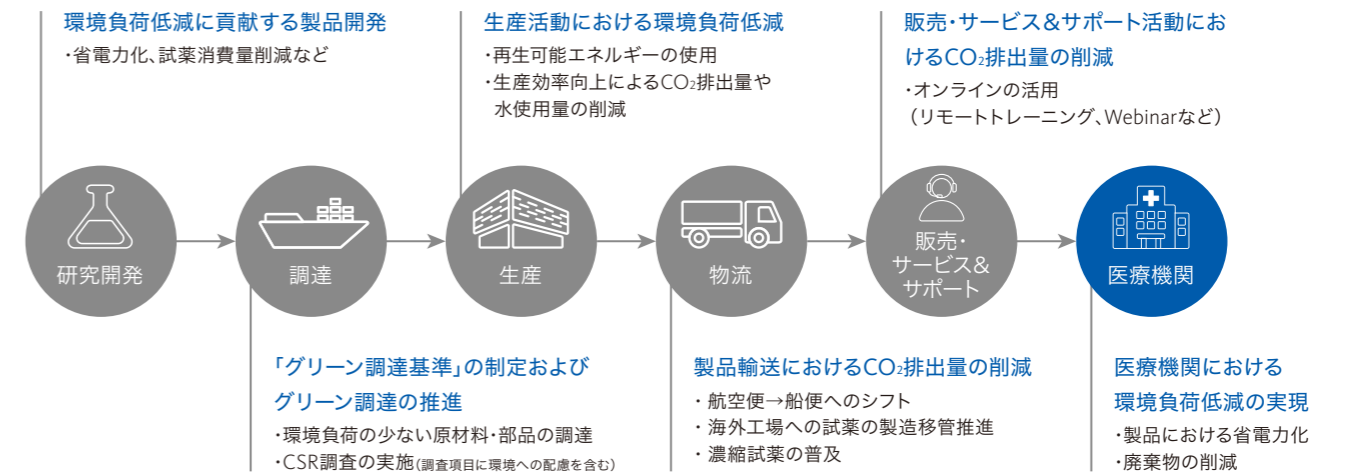
環境への配慮

製品ライフサイクルにおける環境配慮

製品ライフサイクルと各段階での取り組み

シスメックスでは、製品ライフサイクル全体での環境負荷を低減するよう、あらゆる事業活動の段階で、さまざまな取り組みを実施しています。

■主な取り組み



製品設計における環境配慮

シスメックスでは、お客様が製品を使用される際のエネルギーや廃棄物の削減に貢献するため、製品ライフサイクルマネジメントに関するグローバル規程では、製品ライフサイクルの各段階において、経営上適切と考えられる環境配慮の取り組みを盛り込み、検体検査装置の省電力化、試薬使用量の削減などに配慮した製品開発に取り組んでいます。

2021年に発売された多項目自動血球計数装置(小型)では、従来装置より重量を30%、消費電力を25%、試薬消費量を約30%削減し、環境配慮設計を実現しました。

重量
30%削減

消費電力
25%削減

試薬消費量
最大30%削減



多項目自動血球計数装置(小型)

※従来機種比

2020年度の実績

新製品の発売などもあり、消費電力の多い大型の血液分析装置の販売設置台数が増加しましたが、CO₂排出係数が低下したため、機器製品の使用時における1台あたりのCO₂排出量はシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度より8%削減しました。機器製品の使用時における水消費量は、試薬消費量の少ない製品の販売増加により6%削減しました。

今後も、消費電力および水消費量削減を実現する新製品の開発・販売等により、CO₂排出量と水消費量の削減を推進していきます。

▶ サステナビリティ目標の進捗

原料物質の生産における生物多様性への配慮

シスメックスでは、天然資源の使用抑制を目指して、診断薬における動物由来原料のタンパク質に関して、遺伝子組み換えをしたカイコによる生産手法を確立しました。従来、これらの原料の生産には多くのエネルギーを消費していましたが、遺伝子組み換えをしたカイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいため、安定供給が図れるとともに、省エネルギーや廃棄物削減も期待できます。

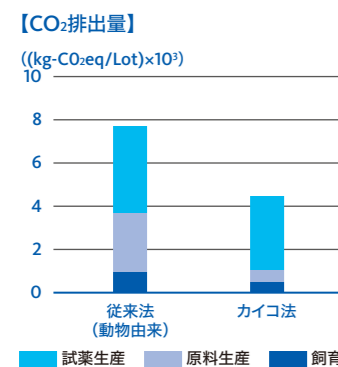
2017年度に発売を開始した血液凝固検査の試薬の原料にも、カイコから生産したタンパク質を用いています。これは、国内で初めて製造販売承認を取得しています。また、この技術を用いた受託生産も行っており、製薬企業、大学、研究機関等に原料物質を提供しています。

▶ 「シスメックスの森」を通じた生物多様性保全への貢献

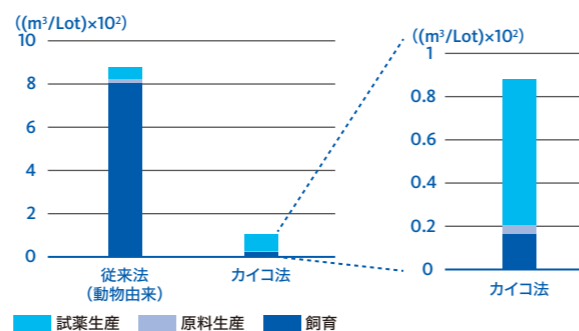


カイコを利用した原料生産

カイコ法使用時における従来法との比較 (血液凝固検査の試薬)



【水資源】



※ 自社製品による比較(東京都市大学との共同研究による)

調達における環境配慮(グリーン調達)

取引先と協力して環境に配慮した調達を推進

シスメックスは、調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定し、環境負荷が少ない原材料・部品の調達推進と、環境保全に意欲的なサプライヤーとの取引を拡大しています。また、毎年各取引先に対して実施しているCSR調査では、環境管理に対する方針、CO₂削減や省エネルギーに関する目標、計画の有無などを確認しています。

- ▶ 調達方針
- ▶ グリーン調達基準
- ▶ サプライチェーンマネジメント

また、グリーン調達基準に基づき、生産および販売する製品を構成する部品、デバイス、材料などに含有される化学物質(環境負荷物質)への対応について、禁止物質、削減物質等を明確にしています。

- ▶ 禁止物質(使用を禁止する物質)
- ▶ 削減物質(削減を必要とする物質)

物流における環境配慮

製品の国内・域間物流のCO₂排出量削減活動

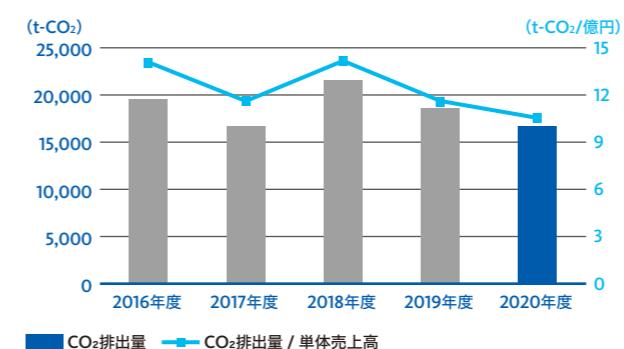
グローバルに事業拡大を続けているシスメックスは、物流の多様化に対応した物流プロセス・体制および梱包材料や在庫管理の見直しによる、CO₂排出量の削減を進めています。

2020年度の実績

航空輸送から海上輸送への切替をさらに積極的に推し進め、出荷物流におけるCO₂排出量をシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度より25%削減し、昨年度に引き続き2025年度目標である15%削減を前倒しで達成しました。今後はより環境負荷の少ない輸送手段として、鉄道利用などのモーダルシフトを進めてまいります。

▶ サステナビリティ目標の進捗

出荷物流におけるCO₂排出量・原単位排出量



ドライアイスの使用が少ない超低温輸送を実現

シスメックスは、ヤマトロジスティクス株式会社*と共同で、ドライアイスの使用量を削減した超低温輸送を実現しました。遺伝子検査用試薬の輸送では、高度な品質管理を担保するために物量を問わず専用便での輸送とドライアイスの使用が必須で、環境への負荷が発生していました。そこでヤマトロジスティクスと共同で実証実験を行い、専用輸送箱を用いることで、冷凍輸送(マイナス20度以下)ではドライアイスを、超低温帯輸送(マイナス65度以下)ではドライアイスの使用量を半減することができました。また、通常輸送との混載ができるようになるため、専用便によるCO₂排出量の削

減にもつながります。

今後はさらに、超低温帯においてもドライアイスを使用しない長時間輸送の実現に向け、実証実験を共同で行います。



※ 2021年4月よりヤマト運輸株式会社へ統合

物流梱包時の環境配慮

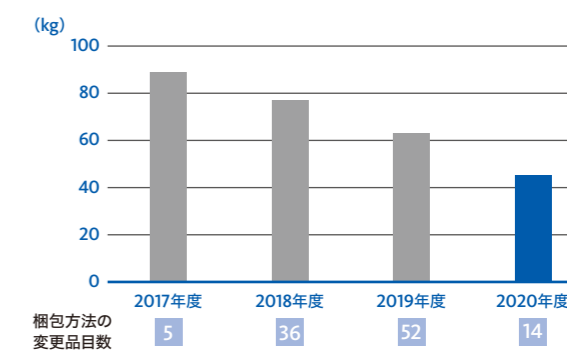
シスメックスでは、日本からの輸出が拡大しているバイオ診断薬について、輸送に必要なプラスチック製蓄冷剤の国際リユースを開始し、蓄冷剤の廃棄削減を図っています。2020年度は、日本と中国、シンガポール、欧州の間でリユースを行い、約2.0tの廃棄削減につながりました。

また、シスメックス国際試薬では、サプライヤーと連携して資材輸送梱包材を段ボールから通い箱(プラスチック製コンテナ)への切り替えを推進しており、全梱包材の20%まで切り替えることができました。

梱包資材の見直しによる省資源化

シスメックスでは、省資源のための梱包材改革に継続的に取り組んでいます。梱包箱のサイズ最適化によるダウンサイジングや、梱包方法を袋状緩衝材からフィルム梱包へ変更するなどにより、2020年度の石油由来の緩衝材の使用量は、2017年度から約50%削減することができました。

石油由来緩衝材の使用量(月平均)



※対象: 保守部品・消耗品の梱包

マテリアリティ

環境への配慮

事業所活動における環境負荷低減

在庫管理などの見直し強化による省資源化

シスメックスでは、全社的なサプライチェーンの見直し強化を推進し、製品の廃棄削減活動に取り組み、2020年度の売上高に占める製品廃棄額の割合を2018年度から約10%改善しました。また機器生産工場のアイスクエアでは、専用コンテナを高密度に収納し、ロボットがコンテナの出し入れを行う自動倉庫型ピッキングシステム「AutoStore」を導入するなど、効率化を図っています。

また海外のグループ会社でも、物流におけるさまざまな施策に取り組んでいます。

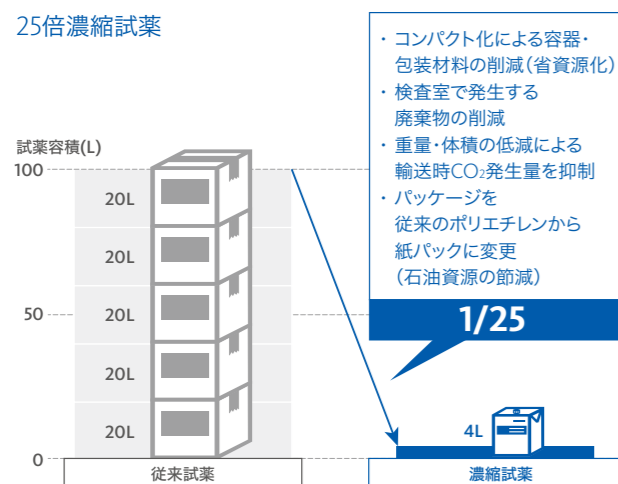
▶グループ各社での取り組み

製品の使用・廃棄における環境配慮

濃縮試薬の使用

ヘマトロジー分野の一部測定装置では、従来試薬を25倍に濃縮した試薬が利用できます。この濃縮試薬は、検査室での試薬の交換頻度の低減や在庫保管の省スペース化などユーザビリティの向上に大きく貢献していることに加え、容器・梱包材の廃棄物削減、輸送時のCO₂削減など環境への配慮も実現しています。また2021年度より、濃縮試薬の普及率と試薬生産現地移管率をサステナビリティ目標として設定し、さらなる環境負荷低減に貢献していきます。

25倍濃縮試薬



温室効果ガスの排出量削減

事業所の温室効果ガス排出量の削減活動

シスメックスでは、直接的または間接的に発生する温室効果ガスの排出量を削減するために、さまざまな活動を進めています。

2019年度開設したバイオ診断薬拠点では、LED照明や人感センサー、需要電力を計測・監視するデマンド制御、高効率な空調システムの導入により省エネルギーを推進しています。さらにシスメックス国際試薬では、2013年度より開始した生産改革による生産性向上の実現が環境負荷の低減につながっています。徹底的な無駄の排除や工程の連続化、また製品の重さを動力に利用する生産ラインでのからくり改善※などにより、一部製品における生産性は、生産改革開始以前と比較して約12倍向上しました。

また、地球環境との共生が十分に考慮されているオフィスに授与される「第33回日経ニューオフィス賞」を受賞しました。

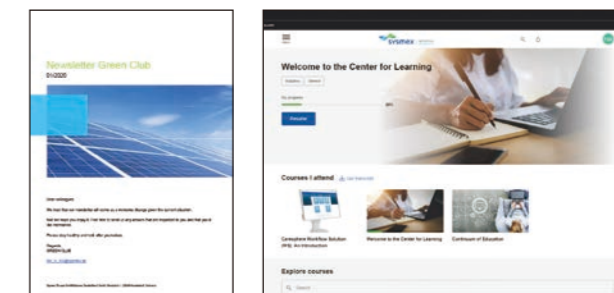
※ からくり改善:現場に既にある動力を流用したり、電力などの人工エネルギーを極力使わず、重力や自然エネルギー、他動力などを動力源とする。(出典:公益社団法人日本プラントメンテナンス協会)



からくり改善くふう展で協会特別賞を受賞した「お助けペダル」(てこの原理により、試薬調製用移動式1トンタンクを運搬する際の初動を楽にするための治具)

シスメックス ヨーロッパでは、使用電力の100%が再生可能エネルギー由来の電力で、さらに自社工場に太陽光パネルも設置しています。また、環境活動を推進する従業員グループを結成し、定期的なディスカッションと改善提案活動を行うとともに、年に3回従業員に向けたニュースレターを発行し啓発活動を行っています。

シスメックス アメリカとシスメックス リージェンツ・アメリカでは、2019年度より使用電力の50%を再生可能エネルギー由来に変更しました。また、カスタマーレーニングと従業員トレーニングのためのオンラインシステムを再整備し、移動に伴うCO₂排出量の削減につなげています。



従業員向けニュースレター カスタマーレーニング Center for learning

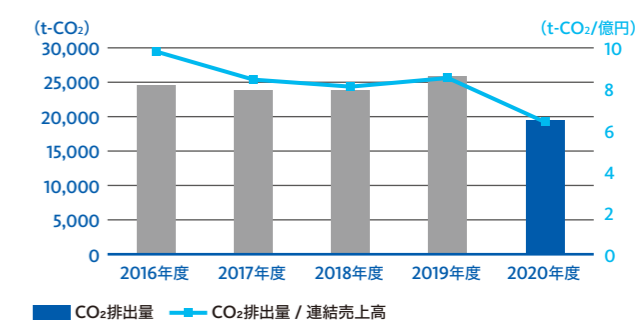
▶カスタマーレーニング Center for learning

▶従業員トレーニング Sysmex University

2020年度の実績

業務効率化など省エネ活動やリモートワーク等が影響し電力消費量が減少したこと、2020年度から電力のCO₂排出係数を最新のものに変更※したことで、事業所活動におけるCO₂排出量はシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度より35%削減しました。今後も各拠点でのCO₂削減に向けた活動を推進していきます。

※ 詳細はP70※5参照

事業所活動におけるCO₂排出量・原単位排出量

▶各事業所の主な取り組み

社用車のCO₂排出量削減

約400台ある国内の社用車の燃料消費量を抑え、CO₂排出量を削減するために、イントラネットや専用車載器を利用して各車両の走行量、燃費情報・運転挙動などを自動把握のうえ点数化することで運転の質を見える化し、ドライバー一人ひとりの環境に関する意識の向上を図るとともに、低燃費車やハイブリッドカーの導入を積極的に進めています。

関連法規制の遵守

省エネ法に基づき、シスメックス株式会社およびシスメックス国際試薬では年間エネルギー使用量を集計した定期報告書とエネルギー削減計画をまとめた中長期計画書を経済産業省へ提出しています。今後も努力目標達成の維持を目指して、国内グループ全社の省エネルギー活動を推進していきます。

水資源の有効利用

水使用量の削減

シスメックスは中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用するなど、事業活動の中で上水や地下水を使用しています。そのため、水使用量の削減を重要な社会的責任の一つと位置付けて、シスメックス・エコビジョン2025で水使用量の削減目標を設定し、各拠点で水の使用効率を高めるなどの取り組みを進めています。

水リスクの評価

シスメックスでは、水ストレスに関するリスク評価を行っています。WRI(世界資源研究所)のアセスメントツールAqueductを用いて分析し、診断薬生産拠点がある中国、ブラジル、インドが相対的に水ストレスの高い地域であることが分かりました。現在のところ各診断薬生産拠点において水リスクは顕在化していませんが、現地と連携してモニタリングを継続するとともに、生産工程における水使用の効率化や安全在庫の確保による供給リスクの低減など、リスク低減に向けた施策を展開しています。

生物多様性との関わり

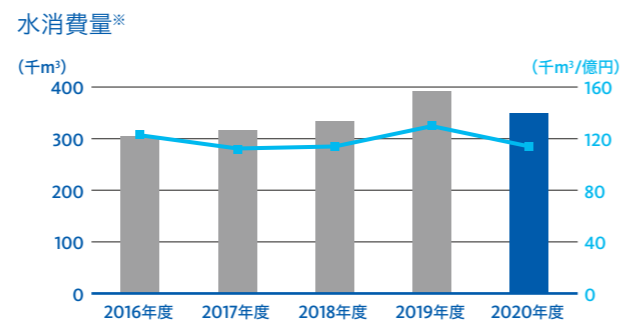
シスメックスでは、事業活動を行うにあたり地球上の生物から多くの恩恵を受けています。そのため、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置付けるとともに、生物多様性保全への貢献を目指しています。

▶「シスメックスの森」を通じた生物多様性保全への貢献

2020年度の実績

リモートワーク等の影響による事業所での水使用量の減少により、事業所活動における水消費量はシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度より7%削減しました。

今後は、さらなる生産効率の改善を進めることにより、水使用量の削減を推進していきます。



■ 水消費量 ■ 水消費量 / 連結売上高

※試薬用水消費量は除く

▶ 各事業所の主な取り組み

排水管理・処理

シスメックスでは水質の保全を重視し、化学物質を扱う開発拠点や工場からの排水で河川や地下水に影響が及ばないように独自の排出基準を設定し、管理しています。

▶ 各事業所の主な取り組み

廃棄物の管理とリサイクル

廃棄物量の削減と安定したリサイクル率の維持

シスメックスは、廃棄物の削減やリサイクル率向上に継続的に取り組んでいます。

機器生産工場であるアイ スクエアでは、社員食堂での食品ロスを減らすため、専用の処理機を利用して生ごみを有機肥料素材等に変換し、生産農家に提供しています。また、そこで栽培された農産物を購入するなど、循環共生型社会の実現に貢献しています。

資料の電子データ化を推進

シスメックスではパソコンやタブレット端末、スマートフォンなどを活用した電子データの送受信でペーパーレス化に取り組んでおり、それによって業務効率の向上と紙使用量および廃棄量の削減を実現しています。また製造拠点においても、製造記録やマニュアルの電子化によりペーパーレス化を推進しています。

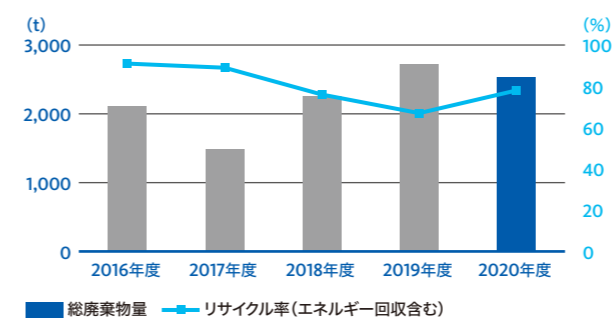
2020年度の実績

米州など海外拠点でのリサイクル率向上により、シスメックス・エコビジョン2025の目標値である93%以上に対して78%の実績となりました。

今後も、各拠点でのリサイクル率向上のための施策を展開し、目標達成に向けた取り組みを推進していきます。

▶ サステナビリティ目標の進捗

総廃棄物量・リサイクル率



■ 総廃棄物量 ■ リサイクル率(エネルギー回収含む)

▶ 物流、梱包での廃棄物削減の取り組み

▶ 各事業所の主な取り組み

有害物質の管理

化学物質の管理

シスメックスでは、製品の研究開発や生産工程で化学物質を扱っています。そのため紛失・漏えいの防止はもちろん、現場で作業に従事する従業員に健康被害が及ばないように化学物質の適正管理に努めています。

有害廃棄物の管理・処理

シスメックスでは、生物由来の物質による万が一の感染の危険性に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。また、その他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。

大気への排出に関する管理・処理

国内のグループ会社では、2015年に改正施行されたフロン排出抑制法に対応するために、各社で対応手順マニュアルを作成し、所有・管理するフロン含有機器の明確化、適切使用、点検の実施、算定漏えい量の把握を実施しています。

なぜ重要か

企業の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上には、コーポレート・ガバナンスの強化が不可欠です。

シスマックスにおいても、経営基盤の強化に向けたコンプライアンスおよびリスクマネジメント体制の整備に加え、多様なステークホルダーとの建設的な対話と協働は企業価値向上につながる重要な経営課題の一つと考えています。

方針

コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置づけ、経営の健全性・透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を目指します。

- ▶ コーポレート・ガバナンス
- ▶ コンプライアンス/リスクマネジメントに関する方針

体制

取締役会の監査・監督機能を強化するとともに、経営の透明性・客観性を向上させることを目的として、監査等委員会設置会社制度を採用しています。また、業務執行の意思決定スピードを高め、事業環境の変化に迅速に対応するため、執行役員制度を導入しています。また、リスクマネジメント活動を統括する組織として内部統制委員会を、コンプライアンスの統括組織としてコンプライアンス委員会を設置しています。

- ▶ シスマックスレポート(コーポレート・ガバナンス)

- P52 コンプライアンスマネジメント
- P54 コンプライアンス推進の取り組み
- P56 人権の尊重
- P58 リスクマネジメント体制
- P59 事業継続に関わるリスクへの対応
- P60 情報セキュリティの強化

実績
(2020年度)



12 件

内部通報件数



5 件

倫理違反件数



2,720 名

情報リテラシー教育
受講者数



GOVERNANCE

マテリアリティ

コンプライアンス

コンプライアンスマネジメント

グループ方針

「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、グループ企業理念である「Sysmex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観に基づいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義し、グループの全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインとして「グローバルコンプライアンスコード」を制定しています。また、これを日本語だけでなく、英語をはじめとした多言語に翻訳し、グループの全役員・従業員が理解し、遵守できるようにしています。

▶ [グローバルコンプライアンスコード全文](#)

コンプライアンス推進体制

シスメックスでは、コンプライアンス違反は社会的信用を失墜させる最も重要なリスクと捉え、当社グループ全体のリスク管理体制の下で、コンプライアンスの統括組織としてコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを推進・強化しています。

コンプライアンス委員会の委員長は、グループ統括責任者として、グループ全体のコンプライアンスを推進しています。また、グループ各社にもコンプライアンス責任者を設置し、各社でコンプライアンスを推進するとともに、コンプライアンス委員会においてグループ全体の活動をモニタリングしています。なお、コンプライアンス推進体制については、内部統制の観点から第三者によるチェックを受けています。

各社やグループに大きな影響を与える重要なコンプライアンス違反またはそのおそれがある事象が発生した場合は、各社のコンプライアンス責任者からコンプライアンス委員会の委員長を通じて、内部統制委員会委員長(取締役社長)および監査等委員である取締役に報告されます。また、情報開示規程に基づき必要となる事象については情報開示を行います。

2020年度の倫理違反件数は5件ありましたが、重大な違反はありませんでした。

▶ [コーポレート・ガバナンス体制](#)

▶ [コーポレート・ガバナンスに関する報告書](#)

内部通報制度

シスメックスでは、全グループ会社で内部通報制度を設置し、運用しています。

国内においては、内部通報制度「カンパニユライン」を設置し、贈収賄や人権侵害などを含むコンプライアンス上の問題に関する相談を受け付け、早期に解決を図るようにしています。「カンパニユライン」では、社内・社外の2つの窓口で、メール、郵便、電話による相談や通報を受け付けています。また、経営陣に関する相談・通報のために、監査等委員である取締役による窓口も設けています。寄せられた情報は匿名で取り扱い、公益通報者保護法に基づき、相談・通報者が不利益を受けまいよう保護しています。海外においても、各国の言語に対応した相談・通報窓口を設置しています。

さらに、2019年度より、グローバル内部通報窓口「Global Compliance Hotline」を設置し、国内外全グループ会社の従業員が本社に直接通報することができるようになりました。この制度により、コンプライアンス違反の早期発見を促進しています。

2020年度の内部通報件数は、国内・海外合わせて12件で、それぞれの案件に対し、事実調査を行った上で適切に対処しました。

グローバルコンプライアンスコード(概要)

1. お客様への安全と安心の提供

私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。

2. 公正な取引と自由な競争の推進

私たちは、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守し、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。

3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底

私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、各国・地域の関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。

4. 適正な研究開発活動の実施

私たちは、研究開発を行うにあたっては、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令等を遵守するとともに高い倫理観をもって活動を行います。

5. 知的財産権の尊重

私たちは、グループの知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりいたしません。

6. 国際的な平和と安全の維持

私たちは、各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。

7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO 中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

9. 公私のけじめと利益相反行為の禁止

私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品および情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。

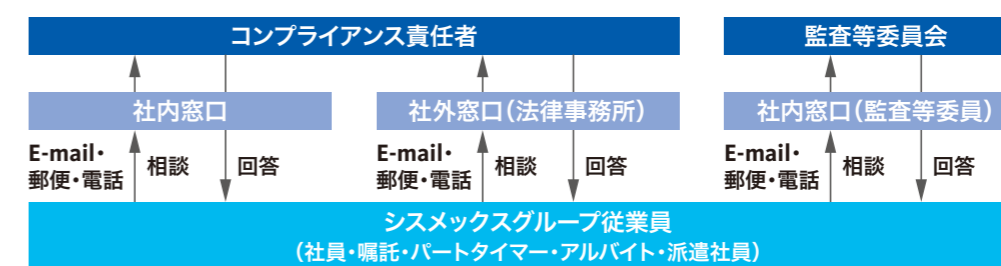
10. 社会との健全な関係の保持

私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。

11. 地球環境の保護

私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、各国・地域の環境に関する国際基準等に基づき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

内部通報制度「カンパニユライン」



コンプライアンス教育

コンプライアンス教育を継続して実施

シスメックスでは、従業員への教育・啓発活動をコンプライアンス推進・徹底のベースと位置付け、継続的に教育を実施しています。新入社員教育、階層別教育などの機会を捉え、グローバルコンプライアンスコードに則った行動の浸透を図っています。

2020年度は、「倫理・行動規範」「贈収賄および腐敗の防止」など、特に重要なテーマについてグループ全体での啓発

を図るため、グループ全従業員を対象としたグローバルコンプライアンス研修を多言語で実施しました。

また、公正な取引の促進、贈収賄・インサイダー取引・差別嫌がらせの禁止など、グローバルコンプライアンスコードを詳しく解説したガイドブックなどの教育ツールの充実を図り、各部門、各社での自主的かつ計画的な教育・啓発活動に活用しています。

▶ [公正なマーケティング活動に関する教育](#)

▶ [人権の尊重を理解するための教育・啓発](#)

▶ [ダイバーシティ教育](#)

マテリアリティ

コンプライアンス

コンプライアンス推進の取り組み

腐敗防止

シスメックスは、国連が提唱するグローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、その10原則の一つである「企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の徹底を図っています。

内部統制委員会にて定期的実施しているリスクアセスメントでは、腐敗行為を含むコンプライアンス違反もリスクの一つとして認識し、リスクの低減に取り組んでいます。また、グローバルコンプライアンスコード「10. 社会との健全な関係の保持」において、腐敗行為を明確に禁じるとともに、グループ全社に適用されるグローバル贈収賄防止規程において、具体的な禁止行為、デューデリジェンスの実施、教育の実施、管理体制などについて定め、グループ全体での遵守に向けた取り組みを推進しています。

▶ グローバルコンプライアンスコード 

▶ 贈収賄防止規程(概要) 

医療機関等との関係の透明性確保


シスメックスでは、研究開発から生産、販売、サービス&サポートにいたるまでの全ての段階で医療機関・医療関係者の皆様と連携する機会が増えており、高い倫理観に基づいて取引を行う必要があります。

日本では、一般社団法人日本臨床検査薬協会が制定された「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」の理念を踏まえ、会員企業であるシスメックス株式会社とシスメックス国際試薬もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開しています。

また、米国・フランスなどでは、企業に対し医療機関との関係の透明性確保を求める法律(サンシャイン法)が制定されており、対象となる医療機関等への資金提供等に関する情報を各国当局に報告・公開し、当社ウェブサイトにも当局サイトで公開されている情報を公開しています。

▶ 医療機関などへの資金提供に関する情報

▶ 医療機関などへの資金提供に関する情報(日本地域詳細) 

▶ 一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」 

研究倫理

適正な研究開発活動の実施

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコード「4. 適正な研究開発活動の実施」において、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令などを遵守するとともに高い倫理観をもって研究開発を行うことを定めています。また「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関するグループ倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社ウェブサイトで公開し、透明性を確保しています。

▶ グローバルコンプライアンスコード 

▶ 臨床研究開発に関するグループ倫理規程

▶ 研究倫理審査委員会の活動

動物実験に対する配慮

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコード「4-4 動物実験」に定めたとおり、動物愛護に関する各国・地域の法令などを遵守し、代替法の使用を優先的に検討した上で必要最小限にとどめるとともに、苦痛を軽減するよう十分配慮し、動物実験を行っています。動物実験は公的な指針に準拠した社内規程に従って実施され、「実験管理委員会」により実験計画が規程に準拠しているかを厳格に審議しています。

準拠している指針:動物の愛護及び管理に関する法律(環境省)、実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準(環境省)、研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針(文部科学省)、動物実験の適正な実施に向けたガイドライン(日本学会会議)

▶ グローバルコンプライアンスコード 

▶ 原料物質の生産における生物多様性への配慮

公正なマーケティング活動

グローバルでのプロモーション活動では、グローバルコンプライアンスコード「2. 公正な取引と自由な競争の推進」において、マーケティングにおける倫理コードを制定しています。世界各地域では、各国の業界基準や自社で制定した基準に基づいた公正なマーケティング活動を推進しています。

日本での活動については、「シスメックスプロモーションコード」を制定しています。2020年度には、日本・東アジア地域本部の営業部門約200名に対し、「最近の不幸事例」「販売情報提供活動について」「入札・談合に関わる法令の基礎知識」など、プロモーションコードに基づいた研修を行いました。

▶ グローバルコンプライアンスコード 

▶ シスメックスプロモーションコード 

税務戦略

シスメックスは、税の透明性の向上を図るため、グローバルコンプライアンスコードにおいて「7. 適正な会計処理と納税の実施」を定めています。その中で、国外関連者との取引に関しては、OECD移転価格ガイドラインや各国の移転価格税制などに準拠した適切な移転価格を算定することや、恣意的な租税回避を目的としたタックスヘイブンの利用は行っていないことを定めています。

また有価証券報告書などにおいて、グループとしての法人税の納税額を開示するとともに、法定実効税率との差異要因についても開示しています。

▶ グローバルコンプライアンスコード 

▶ シスメックスレポート(経営成績および財務分析)

英国における税務戦略(英語のみ)

▶ UK Tax Strategy 

知的財産権の尊重

シスメックスは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりしないことを、グループの全役員・従業員が遵守すべきルールとして、グローバルコンプライアンスコード「5. 知的財産権の尊重」に定め、このルールの周知徹底を図っています。また、新製品開発においては、知的財産部門、研究開発部門、事業推進部門などのメンバーがグローバルにパテントレビューを実施し審議しています。

▶ グローバルコンプライアンスコード 

安全保障貿易の推進

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコード「6. 国際的な平和と安全の維持」で各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引に関与しないことを定めています。不正輸出を防止するため取締役社長直轄の安全保障貿易管理委員会を設置しています。さらに、海外の統括現地法人にも安全保障貿易の管理担当者を置き、グローバルでの運営体制を構築しています。また、年1回、全従業員を対象とする基礎的なeラーニングのほか、最新の世界情勢および法規制に関する講習会などさまざまな教育を継続的に実施し、安全保障貿易管理に対する意識向上を図っています。

▶ グローバルコンプライアンスコード 

マテリアリティ

コンプライアンス
人権の尊重

人権の尊重に関する方針と取り組み

国連グローバル・コンパクトへの参加と
世界人権宣言、ILO 中核的労働基準の支持

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコードに「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」を掲げ、全ての従業員の人権を尊重した企業経営、職場環境づくりに取り組んでいます。これは「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である」ことを規定した世界人権宣言、仕事で守られるべき最低限の労働基準を定めたILO 中核的労働基準の趣旨に則ったものです。

このような考えに実効性を持たせる狙いから、差別、ハラスメント(嫌がらせ)、強制労働・児童労働を禁止するために遵守すべきルール、行動のガイドラインについては、ゼロ・トランスポリシーをもって明文化するとともに、さまざまな研修を通して従業員の啓発を行っています。2011年2月には国連グローバル・コンパクトに参加し、「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則への企業姿勢を明らかにしました。

▶ [グローバルコンプライアンスコード](#) 

人権リスクの特定
(人権デュー・デリジェンス)

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコード「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」に基づき、自社内にとどまらず、サプライチェーン全体の事業活動における人権への影響を特定し、負の影響を防止・緩和していく「人権デュー・デリジェンス」の取り組みが必要であると考えています。具体的には、取引先に対するCSR調査項目の中に「強制労働・児童労働の禁止」「男女・障がい者・人種等に対する差別の排除」などを盛り込み、シスメックスの活動が人権侵害に関与・加担することのないよう、人権への影響を事前に把握し、予防的に対処するしくみを整えています。またシスメックスでは「英国現代奴隷法」が発効したことを受け、シスメックス UK がホームページに声明文を公開するなど、同法に適正な対応をしています。

▶ [サプライチェーンマネジメントの強化](#)

▶ [Anti-Slavery and Human Trafficking Policy](#)

人権に関する相談・通報制度

シスメックスでは、国内外で内部通報制度を設置し、差別・ハラスメントをはじめとする人権相談を受け付けています。寄せられた情報は適切に取り扱い、公益通報者保護法に基づき、相談・通報者が不利益を受けないよう保護するとともに事実確認を行い、コンプライアンス違反が認められた場合は、違反者への制裁処分に加え、是正措置と再発防止策を講じます。

▶ [内部通報制度](#)

人権の尊重を理解するための教育・啓発

人権侵害防止に向けた教育を実施

シスメックスは、ハラスメント(嫌がらせ)の防止や、労働に関する正しい知識の浸透などを目的とする教育を実施し、人権侵害の防止に努めています。

2020年度はグループ全従業員を対象としたグローバルコンプライアンス研修にて「ハラスメント」に関してeラーニングを実施した他、継続して一部の国内グループ会社も含めた新任役職者向け研修で、LGBTQ*を含むハラスメント、労務管理に関する研修を約170名に行った他、新入社員、中途採用者に対しても研修を実施しました。

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング・クィアの頭文字を取った性的マイノリティの総称

▶ [コンプライアンス教育](#)

労働組合結成の自由と
団体交渉の権利の尊重国連グローバル・コンパクトへの参加と
ILO 中核的労働基準の支持

シスメックスでは、国連グローバル・コンパクトへの参加とILO 中核的労働基準の支持に基づき、組合結成や団体交渉といった従業員の権利を尊重しています。

シスメックス株式会社の労働組合であるシスメックスユニオンには役職者や一部の管理職を除いた全従業員が加入し、その割合は61%です(2020年度)。中国の済南シスメックス、シスメックス ベトナム、ハイフェンバイオメッドなど海外のグループ会社でも組合を結成しています。

労使の対話

グループ各社で労使の対話を実施

シスメックス株式会社では、毎年シスメックスユニオンとの団体交渉を実施しています。2020年度には定例の労使協議会に加え、適宜労使間協議を行い、労働時間の適正化・業務効率化による生産性の向上や、多様化する従業員の労働環境および人事制度、コロナ禍における環境変化への対応や健康経営の推進などについて議論しました。

このような対話は各社でも実施しており、シスメックCNAでは各部門の代表者で構成される社員会を結成し、職場環境や労務時間管理、有給休暇の取得状況などについて四半期ごとに労使協議の場を設けています。

マテリアリティ

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

リスクマネジメント体制

委員会を設置してリスクマネジメントを推進

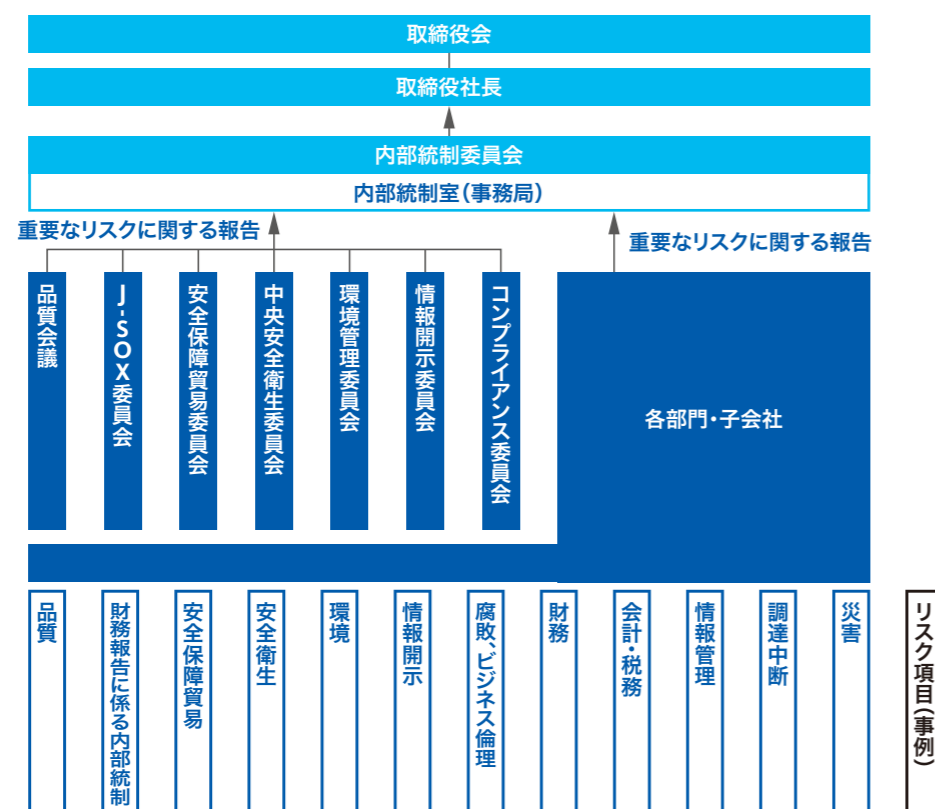
シスメックスでは、グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、内部統制委員会を設置し、戦略リスクも加えたリスク全般に関するマネジメント活動を推進しています。委員長は取締役社長が務め、担当執行役員、監査等委員(社外取締役を除く)をメンバーとし、社外取締役がオブザーバーを務めています。

委員会では、公正な取引、腐敗やビジネス倫理を含むコンプライアンス、人材、労働安全衛生、環境、納税を含む会計・財務などの項目についてリスク評価を定期的実施し、グループとして事業に与える影響が大きなリスクを特定して対策を講じています。

また、コンプライアンス委員会などの関連委員会および各部門・関係会社実施するリスクマネジメントの状況をモニタリングし、定期的に取り締役に報告するとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクが発生した場合についても、取締役会に報告しその対応について審議するなど、継続的にPDCAを回しています。

- ▶ コーポレート・ガバナンス
- ▶ シスメックスレポート(リスクマネジメント)

リスクマネジメント体制



| | 【平時】 | 【有事】 |
|----------|--------------------------|---------------|
| ■内部統制委員会 | 重要リスク対策、グループリスクマネジメントの統括 | 重大な危機への対応 |
| ■各部門・子会社 | リスクアセスメント、オペレーショナルリスク対策 | オペレーショナルリスク対応 |
| ■各委員会 | 通常のリスクマネジメント | オペレーショナルリスク対応 |

マテリアリティ

リスクマネジメント

事業継続に関わるリスクへの対応

事業継続計画(BCP)の整備

大規模災害発生時の対応

シスメックスでは、地震や風水害などの大規模災害が発生した際にも重要業務を継続し、迅速な復旧を図るため、生産、調達などの機能ごとに事業継続計画(BCP)を策定して非常時に備えています。BCPでは、危機発生時にも医療機関において当社製品が安定して稼働し続けられるように、供給を優先すべき重要製品を選定しています。また、災害対応に関する規程やマニュアルを整備し、緊急時に迅速に対応できる体制を整え、災害発生を想定した模擬訓練の定期的な実施と、従業員用備蓄品の拡充も行っています。BCP等の策定した規程やマニュアルは定期的に見直しを実施し、訓練を通じて従業員への浸透と改善を行っております。

製品の安定供給に向けた取り組みでは、主要な原材料の調達先の複数化や地産地消の考えに基づいた生産場所の選定によるリスク分散を図るとともに、非常時における工場間の相互供給体制の構築、輸送面での代替ルートの確保などを実施しています。近年では地震のみならず局地的な風水害も増加傾向にありますが、災害発生時の都度、早期に影響を把握して対策をとることで、製品供給の継続を果たしてきました。

従業員に対しては、緊急連絡手段として「安否確認ツール」を導入し、従業員の安否確認を迅速に行える体制を整えています。また、各事業所にはデジタル無線機を設置し、通信途絶の際にも連絡が取れる手段を確保し、備蓄品および帰宅支援品も人数分備えています。eラーニングによる防災・災害時対応の教育や模擬訓練も定期的実施しており、従業員一人ひとりの意識向上にも努めています。

IT基幹システムについては、災害などに強い社外データセンターに配置するとともに、万一災害などの発生時に通常稼働しているシステムがダウンした場合でも、速やかにバックアップシステムへ移行できるシステム基盤を構築しています。

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症への対応においては、発生当初より対策プロジェクトを立ち上げ、製品の安定供給およびお客様へのサービス&サポートの継続と、従業員のテレワークの活用などの感染防止策の徹底に努めています。また、社内陽性者発生時の対応をフロー化し、即時対応できる体制を整備しています。

製品の安定供給では、生産部門とSCM部門が中心となり、サプライヤーの状況把握と製品への影響を迅速に把握し、生産計画を変更することなく、継続的な製品供給に努めています。

また、サービス&サポートにおいては、オンラインサポートの活用に加え、医療機関に出入りする従業員に対し、毎日の体温測定や施設訪問時のアルコール消毒、マスク、手袋の装着などの感染対策を徹底し、活動を継続しています。

従業員に対する感染防止策では、海外グループ会社も含めた従業員に対し、フレックスタイムやテレワーク、Web会議の使用を推進し、安心して働ける環境を整備するとともに、グループ全体での従業員(パートタイマー・派遣社員含む)の雇用を維持しています。

▶ その他新型コロナウイルス感染症への取り組み

マテリアリティ

リスクマネジメント

情報セキュリティの強化

製品セキュリティ、
情報・サイバーセキュリティ対策の強化

製品セキュリティの取り組み

シスメックスは、お客様にご使用いただく製品・サービスに対して「製品セキュリティポリシー」を定め、Product Security Incident Response Team (PSIRT)を設置し、製品の設計・製造、および市販後の脆弱性管理を行っています。

また、お客様や研究開発・実験にご協力いただいた方々からお預かりした機微情報(個人・患者・被験者情報含む)や、製品に関する高度な独自技術や知的財産などについては、経営上の重要な情報資産と捉え、情報の外部漏えい防止や、内部不正を未然に防ぐための対策をとっています。

情報・サイバーセキュリティの取り組み

シスメックスでは、グローバル情報セキュリティ基本規程(情報セキュリティポリシー)を定め、取締役 専務執行役員が務める情報セキュリティ統括責任者の統括・管理の下、DX戦略推進本部を中心に、グループ全体の情報セキュリティマネジメント体制を構築し、統制管理しています。また、2020年度からは新たにSysmex-Computer Security Incident Response Teamを設置し、取り組みの強化を行っています。

外部団体との連携では、厚生労働省・病院・国内医療機器メーカーによる医療機器サイバーセキュリティ協議会への参加や、一般社団法人 日本シーサート協議会に加盟するなど、有事や重大インシデントに対する脅威情報の共有を行っています。

社内での具体的な施策としては、情報へのアクセス権限管理の徹底と定期的な棚卸、セキュリティパッチの定期的更新、会社貸与/パソコン・モバイル機器の生体認証(顔認証・指紋認証)によるログイン制限、導入アプリケーションの審査など継続的な運用・管理に加え、ランサムウェア対策(エンドポイント技術対策)として、PC・サーバー端末に対するEDR(Endpoint Detection Response)を導入しました。

情報・サイバーセキュリティ教育

シスメックスでは、グループ全従業員に加え、派遣社員、請負業者に対しても、情報セキュリティ教育のeラーニングを毎年実施しています。また、2021年度より情報リテラシー教育受講者数をサステナビリティ目標のモニタリング指標として設定し、情報セキュリティレベル向上に努めていきます。

情報セキュリティに関する認証取得

シスメックスでは、スカイフロントリサーチキャンパス(川崎市川崎区)において、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)に関する国際規格ISO 27001の認証を取得しており、遺伝子配列等の個人情報を用いた研究における情報セキュリティ管理を強化しています。また、シスメックスCNAにおいては、サービス・サポート部門において同認証を取得し、情報の機密性・完全性・可用性を確保しています。

▶ グローバル情報セキュリティ基本規程

(情報セキュリティポリシー)概要 

▶ 製品セキュリティポリシー 

マテリアリティ

ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダーの皆様との積極的な対話を通じて、より良い関係を構築します。さらに、ご期待やご要望を事業活動に取り入れることで戦略の実行性を高め、共に持続可能な社会の実現を目指します。

| ステークホルダー | 事業に関わる社会の要請 | ステークホルダーとの主な対話 | 関連ページ |
|----------|---|---|---|
| お客様 | <ul style="list-style-type: none"> 製品・サービスの品質・安全性の確保 製品・サービスを通じた顧客満足度の向上 安定的な供給 革新的な製品やサービスの創出 | <ul style="list-style-type: none"> カスタマーサポートセンター(お問い合わせ窓口) 顧客満足度調査 VOC (Voice of Customer) の収集 カスタマートレーニング/ユーザーミーティング 学術セミナー ウェブサイト/ソーシャルメディア | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 品質・安全性に関する情報(P17) ▶ お客様満足度の向上(P18) ▶ サービス&サポートの充実(P19) ▶ 学術活動(P20) |
| 従業員 | <ul style="list-style-type: none"> 長期的な勤務の確保 成果に応じた公正な処遇 能力が発揮できる職場環境 多様性の受け入れ 自己実現と成長の機会の提供 | <ul style="list-style-type: none"> 企業風土調査/ココロの健康診断 自己申告制度(キャリア設計の希望調査) ダイバーシティ・ラウンドテーブル 人事制度、人材開発体系に関する説明会と意見交換会 内部通報制度 労使協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 多様な働き方の実現(P26) ▶ ダイバーシティ&インクルージョンの推進(P28) ▶ 自律的なキャリア形成(P30) ▶ 健康増進に向けた取り組み(P33) ▶ コンプライアンス推進体制(P52) ▶ 労使の対話(P57) |
| 取引先 | <ul style="list-style-type: none"> 公平・公正な取引 相互の信頼関係と研鑽による相乗発展 | <ul style="list-style-type: none"> サプライヤー向けCSR調査 サプライヤー訪問 販売代理店会議/訪問 サプライヤー向けトレーニング | <ul style="list-style-type: none"> ▶ サプライチェーンマネジメント(P21) |
| 株主・投資家 | <ul style="list-style-type: none"> 経営の健全性と透明性確保 堅実かつ革新的な経営推進 持続的な成長性の維持 社会のサステナビリティとの両立 積極的な情報開示 | <ul style="list-style-type: none"> 株主総会・株主懇親会 機関投資家・アナリスト向け技術説明会 個人投資家向け会社説明会/会社見学会 決算説明会 カンファレンスコール 投資家訪問 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ IR情報(Webサイト) |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 医療の発展や健康な社会の構築に貢献 地域社会の課題解決に貢献 事業活動における環境負荷低減 従業員の社会貢献活動推進 | <ul style="list-style-type: none"> 政府機関、国際機関との連携 業界団体への参画 地域コミュニティへの参画 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 医療アクセスの向上(P10) ▶ 医療機関等との関係の透明性確保(P54) ▶ 社会貢献活動(P36) |

▶ 企業理念および行動基準

▶ シスメックスレポート(ステークホルダーエンゲージメント)

社外からの評価

サステナビリティ関連の評価、実績

世界的なサステナビリティインデックスに選定

財務的な視点に加え、環境・社会・ガバナンス(ESG)の非財務の視点から企業の持続可能性(サステナビリティ)を評価し、長期的視点で投資を行う責任投資が拡大しています。その責任投資の指標として、世界ではさまざまなサステナビリティインデックスが利用されています。シスメックスは持続可能性が高い企業として、多くのサステナビリティに関連するインデックスに選定されています。

- **Dow Jones Sustainability World Index**

(2016年度より)

- **Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index**

(2012年度より)

米国のS&P Dow Jones Indices社が発表しているESG投資インデックス。企業のサステナビリティを「経済・環境・社会」の側面から評価し、総合的かつ先進的な取り組みを行っている、長期にわたり持続的な成長が期待される企業を選定している。

World Indexは、世界の上市企業が対象。Asia Pacific Indexは、アジア太平洋地域の上市企業が対象。

Member of

Dow Jones Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA

- **FTSE4Good Index** (2008年度より)

英国ロンドン証券取引所グループのFTSE Russell社が発表しているESG投資インデックス。世界主要企業の一般に公表されている情報のみを用いたESG評価に基づいて、優れた企業を選定している。



- **FTSE Blossom Japan Index** (2017年度より)

英国のFTSE Russell社が、ESGについて優れた対応を行っている日本企業を選定している。SDGsを含む国際基準から導出されたFTSE4Goodの組み入れ基準を活用している。



- **MSCI ESG Leaders Indexes** (2011年度より)

- **MSCI SRI Indexes** (2013年度より)

米国モルガンスタンレーグループのMSCI社が開発したESG投資インデックス。評価対象企業の産業の特徴を踏まえ、各インデックスの重要度の高いESG課題に絞り込んだ評価に基づいて企業を選定している。



- **MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数**

(2017年度より)

米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中でESG格付けが相対的に高い企業を選定している。

2021 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

- **MSCI日本株女性活躍指数(WIN)**

(2017年度、2019年度より)

米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多様性に優れた企業を選定している。

2021 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

- **S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数** (2018年度より)

米国のS&P Dow Jones Indices社が、TOPIX(東証株価指数)をユニバースとして、環境情報の開示状況、炭素効率性(売上高当たり炭素排出量)の水準により構成銘柄の投資ウエイトを決定した指数。



- **ISS ESG 「Prime」 status** (2019年度より)

ISS ESG(米国の議決権行使助言会社世界大手Institutional Shareholder Services社のESG投資関連ソリューション事業ユニット)により提供される、サステナビリティ格付における評価。ESGの観点から、業界内で高い評価を得た企業が「Prime」として認定される。



- **Ethibel Excellence** (2011年度より)

- **Ethibel Pioneer** (2014年度より)

ベルギーの非営利団体Forum Ethibelが開発した投資インデックス。企業の社会的責任の観点から高いパフォーマンスを示している企業を選定している。ExcellenceとPioneerの2種類があり、Excellenceに選ばれた企業の中から、さらに優れた企業がPioneerに組み入れられる。



- **Ethibel Sustainability Index (ESI)** (2015年度より)

Ethibel Excellenceに選ばれた企業の中から、浮動株時価総額などの制約条件に基づいて、構成されているインデックス。



- **Global 100 (世界で最も持続可能な100社)**

(2012年、2016年、2017年、2021年)

カナダのコルポレート・ナイツ社が選出する、持続可能性の高い企業上位100社。世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)にあわせて毎年発表される。



- **Euronext Vigeo Eiris World 120 Index**

(2018年度より)

欧州で多数の証券取引所等を運営するEuronext社と、ESG調査会社であるVigeo Eiris社が開発した株価指数で、欧州・北米・アジア太平洋地域の大手企業1,500社の中から選定された、ESGの取り組みに優れた企業上位120社で構成される。



- **SOMPOサステナビリティ・インデックス** (2018年度より)

SOMPOアセットマネジメント株式会社が設定するインデックス。ESGの取り組みに優れた企業約300銘柄が選定される。



実績データ 社会性データ

お客様関連

| 項目 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 関連記事 |
|---|--------|--------|--------|----------|
| シスメックスカスタマーサポートセンターへのお問い合わせ(件) | 86,906 | 86,716 | 80,885 | 品質と信頼の追求 |
| 米国のお客様満足度*(点/10点満点) ※ IMV ServiceTrakによる調査 | 9.37 | 9.22 | 9.28 | |

従業員関連

▶ サステナビリティ目標の進捗状況「魅力ある職場の実現」

その他実績※1

| 項目 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 関連記事 | |
|-----------------------------|----------|--------|--------|------|-------------------------|
| 育児休業利用者 | 女性(名) | 40 | 33 | 32 | 働きやすい 職場環境の確保 |
| | 男性(名) | 3 | 11 | 27 | |
| 育児のための 勤務時間短縮制度利用者 | 女性(名) | 56 | 70 | 81 | |
| | 男性(名) | 2 | 1 | 1 | |
| 介護休業利用者 | 女性(名) | 1 | 2 | 1 | |
| | 男性(名) | 1 | 1 | 0 | |
| 育児休業からの復帰率 | 女性(%) | 99 | 98 | 100 | |
| | 男性(%) | 100 | 100 | 100 | |
| 積立有給休暇利用者(名) | 130 | 129 | 84 | | |
| 在宅勤務利用者(名) | 112 | 134 | 142 | | |
| フレックスタイム利用者(名) | 2,008 | 2,600 | 2,668 | | |
| 社内託児所利用児童 | 年間延べ(名) | 32 | 25 | 17 | |
| | 年度末時点(名) | 26 | 22 | 17 | |
| 育児・介護理由の退職者再雇用 | 新規登録者(名) | 2 | 2 | 3 | |
| | 再雇用者(名) | 1 | 1 | 0 | |
| | 再雇用率(%) | 50 | 50 | 0 | |
| 離職 (定年退職を除く、正社員のみ) | 離職者(名) | 86 | 67 | 57 | |
| | 離職率(%) | 3.79 | 2.89 | 2.39 | |
| 女性マネジメント比率 (課長級以上の女性の比率) | (%) | 8.1 | 7.8 | 7.9 | ダイバーシティ& インクルージョンの推進 |
| 定年退職者再雇用 | 希望者(名) | 18 | 32 | 17 | |
| | 再雇用者(名) | 18 | 31 | 17 | |
| | 再雇用率(%) | 100 | 97 | 100 | |

| 項目 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 関連記事 | |
|---------------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|------------------|
| 新卒採用※2 | 合計(名) | 62 | 77 | 52 | 人材の育成 |
| | 男性(名) | 32 | 45 | 35 | |
| | 女性(名) | 30 | 32 | 17 | |
| | うち外国人(名) | 5 | 12 | 4 | |
| 中途採用※2 | 合計(名) | 48 | 63 | 76 | |
| | 男性(名) | 36 | 43 | 64 | |
| | 女性(名) | 12 | 20 | 12 | |
| | うち外国人(名) | 0 | 2 | 6 | |
| 正社員への登用実績※2 | 契約社員(名) | 13 | 22 | 18 | |
| | 派遣社員(名) | 10 | 10 | 3 | |
| | 合計(名) | 23 | 32 | 21 | |
| インターンシップ生 受け入れ人数 | 合計(名) | 125 | 144 | 594 | |
| | うち外国人(名) | 6 | 13 | 0 | |
| 研修実績 | 従業員1人あたりの費用(円) | 10,300 | 98,000 | 63,000 | |
| | 従業員1人あたりの時間(時間) | 28.9 | 27.7 | 34.0 | |
| | 研修プログラム数(個) | 26 | 27 | 82 | |
| 労働災害※2 | 労災による死亡(名) | 0 | 0 | 0 | 健康増進と 労働安全の推進 |
| | 労災によるけが(名) | 5 | 2 | 2 | |
| | 労働災害度数率 | 0.89 | 0.86 | 0.67 | |
| | 労働災害強度率 | 0.06 | 0.08 | 0.06 | |
| | 延べ労働損失日数(日) | 325 | 458 | 336 | |
| | 延べ実労働時間数(時間) | 5,612,498 | 5,828,206 | 5,987,268 | |

※1 対象:シスメックス株式会社単体

※2 過去の開示データから一部修正

| 項目 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|--------------|------------|------------|------------|
| 従業員数(名)※1 | 2,049(501) | 2,108(512) | 2,175(552) |
| 平均年齢(歳) | 41.1 | 41.2 | 41.4 |
| 平均勤続年数(年) | 12.3 | 12.4 | 12.5 |
| 平均年間給与(千円)※2 | 7,822 | 8,002 | 7,390 |

※1 従業員数はシスメックス株式会社から社外への出向者を除き、社外からシスメックス株式会社への出向者を含む就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載

※2 平均年間給与は、基準外賞金および賞与を含む。

実績データ 環境データ













マテリアルバランス

| 項目 | | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 対象 | |
|------------|-------|--------|--------|--------|------|-----------------------------------|
| グループ男女比率 | 日本 | 男性(%) | 58.4 | 57.7 | 57.0 | 正社員、受入出向者、 有期雇用 (役員、派遣社員除く) |
| | | 女性(%) | 41.6 | 42.3 | 43.0 | |
| | 米州 | 男性(%) | 61.1 | 60.9 | 61.2 | |
| | | 女性(%) | 38.9 | 39.1 | 38.8 | |
| | EMEA | 男性(%) | 55.2 | 57.1 | 54.1 | |
| | | 女性(%) | 44.8 | 42.9 | 45.9 | |
| | 中国 | 男性(%) | 66.0 | 67.3 | 66.5 | |
| | | 女性(%) | 34.0 | 32.7 | 33.5 | |
| アジア・パシフィック | 男性(%) | 61.9 | 58.7 | 61.9 | | |
| | 女性(%) | 38.1 | 41.3 | 38.1 | | |







| 項目 | | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 対象 | |
|----------|------------|--------|--------|--------|-------|-----------------------------------|
| グループ従業員数 | 日本 | 男性(名) | 2,071 | 2,107 | 2,180 | 正社員、受入出向者、 有期雇用 (役員、派遣社員除く) |
| | | 女性(名) | 1,475 | 1,598 | 1,646 | |
| | 米州 | 男性(名) | 731 | 755 | 769 | |
| | | 女性(名) | 465 | 494 | 488 | |
| | EMEA | 男性(名) | 1,355 | 1,388 | 1,446 | |
| | | 女性(名) | 1,099 | 1,154 | 1,227 | |
| | 中国 | 男性(名) | 452 | 527 | 520 | |
| | | 女性(名) | 233 | 256 | 262 | |
| | アジア・パシフィック | 男性(名) | 516 | 583 | 602 | |
| | | 女性(名) | 318 | 369 | 370 | |
| | 合計(名) | | 8,715 | 9,231 | 9,510 | |

社会貢献活動関連

| 項目 | 対象範囲 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|---------|------------|------------|------------|----------|
| 社会貢献支出額 | シスメックス株式会社 | 約5億3,000万円 | 約4億6,000万円 | 約3億300万円 |

| INPUT | | | | |
|---|---------------|--------|--------|--------|
| | | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|  | 電気使用量(千kWh)* | 41,958 | 51,255 | 48,158 |
|  | 都市ガス(千m³) | 1,097 | 1,108 | 1,212 |
|  | LPG(t) | 19 | 19 | 16 |
|  | LNG(t) | 57 | 0 | 0 |
|  | 重油(kL) | 0 | 0 | 0 |
|  | 灯油(kL) | 29 | 24 | 1 |
|  | 軽油(kL) | 38 | 24 | 13 |
|  | 国内社用車ガソリン(kL) | 619 | 604 | 518 |
|  | 国内社用車軽油(kL) | 18 | 10 | 10 |
|  | 水使用量(千m³) | 449 | 512 | 452 |
|  | OA用紙(t) | 38 | 36 | 30 |
|  | PRTR(t) | 0 | 0 | 0 |



| OUTPUT | | | | |
|---|--------------------------------------|--------|--------|--------|
| | | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|  | 温室効果ガス排出量(事業所)(t-CO ₂) | 22,349 | 24,375 | 18,283 |
|  | 温室効果ガス排出量(国内社用車)(t-CO ₂) | 1,483 | 1,428 | 1,227 |
|  | 廃棄物等総排出量(t) | 2,255 | 2,722 | 2,529 |
|  | リサイクル率(%) | 76 | 67 | 78 |
|  | 水排出量(千m³) | 292 | 287 | 270 |
|  | PRTR(t) | 0 | 0 | 0 |

※ 過去の開示データから一部修正

実績データ

環境パフォーマンスデータ

| 項目 | 内容 | | 単位 | 対象範囲 ^{#1} | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | カバー率 ^{#2} | 算定方法など | |
|----------------------|----------------------------------|------------------------------------|--|--|--|---------|---------|---------|--|---|--|---|
| INPUT | エネルギー消費量 | 非再生可能エネルギー消費量 | 電力(非再生可能) | 千kWh | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所 | 37,193 | 38,399 | 40,670 | 44,551 | 42,287 | 84% | |
| | | | 都市ガス | 千m ³ | | 1,474 | 600 | 1,097 | 1,108 | 1,212 | | |
| | | | LPG | t | | 21 | 24 | 19 | 19 | 16 | | |
| | | | LNG | t | | 0 | 0 | 57 | 0 | 0 | | |
| | | | 重油 | kL | | 0 | 35 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | 灯油 | kL | | 31 | 29 | 29 | 24 | 1 | | |
| | | 軽油 | kL | 21 | | 17 | 38 | 24 | 13 | | | |
| | 再生可能エネルギー消費量 | 電力(再生可能) | 千kWh | 210 | 1,302 | 1,288 | 6,704 | 5,871 | | | | |
| | 総消費量 | | GJ | 440,124 | 414,136 | 461,370 | 496,798 | 498,657 | 総消費量=Σ(エネルギー種別消費量×換算係数 ^{#4}) | | | |
| | その他非再生可能エネルギー消費量 | ガソリン(社用車) | kL | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所 | 734 | 689 | 619 | 604 | 518 | 37% | | |
| 軽油(社用車) | 25 | 23 | | | 18 | 10 | 10 | | | | | |
| 水使用量 | 地下水 | 千m ³ | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所 | 58 | 53 | 65 | 75 | 86 | 84% | 自家用地下水使用量 | | |
| | 水道 | | | 348 | 365 | 384 | 437 | 366 | | | | |
| | 総使用量 | | | 406 | 418 | 449 | 512 | 452 | | | | |
| OA用紙使用量 | | t | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場 | 42 | 45 | 38 | 36 | 30 | 37% | | | |
| PRTRインプット | | t | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR取扱量 | | |
| OUTPUT | 温室効果ガス排出量 GHGスコープ1 ^{#3} | 固定排出源からのエネルギー起源CO ₂ 排出量 | t-CO ₂ | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所 | 3,559 | 1,749 | 2,964 | 2,665 | 2,807 | 84% | 排出量=Σ(燃料使用量×CO ₂ 排出係数 ^{#4}) | |
| | | 社用車からのCO ₂ 排出量 | | | 1,768 | 1,661 | 1,483 | 1,428 | 1,227 | | | |
| | | 総排出量 | | | 5,327 | 3,410 | 4,447 | 4,093 | 4,034 | | | |
| | 温室効果ガス排出量 GHGスコープ2 ^{#3} | 総排出量 | t-CO ₂ | | 19,201 | 20,438 | 19,385 | 21,710 | 15,476 | 排出量=Σ(購入電力量×CO ₂ 排出係数 ^{#5}) + Σ(購入蒸気量×CO ₂ 排出係数 ^{#4}) | | |
| | GHGスコープ1+2 | 総排出量 | t-CO ₂ | | 24,528 | 23,848 | 23,832 | 25,803 | 19,510 | | | |
| | 温室効果ガス排出量 GHGスコープ3 ^{#3} | 物流におけるCO ₂ 排出量 | t-CO ₂ | | シスメックス株式会社 | 19,573 | 16,711 | 21,571 | 18,547 | 16,691 | - | 排出量=Σ(輸送重量×輸送距離×CO ₂ 排出原単位 ^{#6}) 日本向け：国内物流倉庫から国内顧客等(支店・営業所を含む)までの物流CO ₂ 排出量 海外向け：国内物流倉庫から海外各地域の港・空港までの物流CO ₂ 排出量 |
| | 廃棄物の排出量 | 総排出量 | t | | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場 | 2,106 | 1,482 | 2,255 | 2,722 | 2,529 | 82% | 廃棄物排出量=一般廃棄物排出量+産業廃棄物排出量 廃棄物のうち、第三者による処理の結果、有価物になったものの量 燃料化(RPFなど)したものの量 廃棄物のうち、再利用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマルリサイクル)したものの量 総廃棄物処分量=総排出量-リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物 |
| 総排出量(国内営業拠点含まない) | | 1,436 | | 1,361 | | 2,117 | 2,591 | 2,411 | | | | |
| マテリアルリサイクル廃棄物 | | 814 | | 1,044 | | 1,264 | 1,560 | 1,711 | | | | |
| リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物 | | 1,309 | | 1,213 | | 1,617 | 1,744 | 1,884 | | | | |
| 総廃棄物処分量 | | 128 | | 148 | | 500 | 847 | 527 | | | | |
| マテリアルリサイクル率 | | % | | 57 | | 77 | 60 | 60 | 71 | | | |
| リサイクル率(エネルギー回収を含む) | % | 91 | 89 | 76 | 67 | 78 | | | | | | |
| 水排出量 | 総排出量 | 千m ³ | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所 | 189 | 273 | 292 | 287 | 270 | 84% | | | |
| PRTRアウトプット | 排出量 | t | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 37% | 化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR排出量 | | |
| | 移動量 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR移動量 | | |

| 項目 | 内容 | | 単位 | 対象範囲※1 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | カバー率※2 | 算定方法など |
|----------|-----------------------|--------------|----|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| コンプライアンス | 環境法規制(大気汚染、水質汚濁など)の違反 | 高額罰金の総額 | 億円 | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100% | |
| | | 罰金以外の制裁措置総件数 | 件 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 重大な化学物質の漏出・紛失 | 総件数 | 件 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 総漏出量 | t | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |

※1 各年度のデータは当該年度の対象範囲による実績を示す。2020年度対象の詳細は下記のとおり

国内主要事業所:シスメックス株式会社(本社・テクノパーク・ソリューションセンター)

国内機器工場:シスメックス株式会社(加古川工場・アイスクエア)、シスメックスメディカ、シスメックスRA

国内試薬工場:シスメックス国際試薬(小野工場・西神工場)

国内営業拠点:シスメックス株式会社(東京支社・他20拠点)

国内その他事業所:シスメックス株式会社(研究開発センター・他5拠点)

海外主要拠点:シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック

海外生産工場:シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ブラジル、シスメックス リージョンツ・アメリカ、シスメックス インディア、

シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス パルテック、

シスメックス アイノスティクス、ハイフェン バイオメド

海外その他事業所:シスメックス 台湾、シスメックス コリア

※2 カバー率は、会社別売上高を基に算出

※3 温室効果ガス排出量 スコープ1:企業の施設や工場、社用車から直接排出される温室効果ガス

温室効果ガス排出量 スコープ2:エネルギーの使用に伴う、企業から間接排出される温室効果ガス

温室効果ガス排出量 スコープ3:商品・サービスに関わる企業群(サプライチェーン)全体から排出される温室効果ガス

※4 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく換算係数もしくは排出係数

※5 日本:地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別排出係数一覧(令和2年提出用)の調整後排出係数

海外:IEA, IEA Emission factors 2020の2018年排出係数

2020年度より最新の排出係数で算定する方法に変更。過去は以下係数使用

・日本(2016-2019年度):地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別排出係数一覧(平成29年提出用)の調整後排出係数

・海外(2016-2017年度):GHG Protocol 2005

・海外(2018-2019年度):IEA, Emissions from Fuel Combustion 2018の2016年排出係数

※6 「ロジスティクス分野におけるCO₂排出量算定方法 共同ガイドラインVer.3.1」に基づく排出原単位

実績データ 第三者保証

「シスメックス サステナビリティデータブック 2021」では、開示しているデータの信頼性を向上させるため、パフォーマンスデータ(下表)について、デロイトトーマツサステナビリティ株式会社の保証を受けております。

保証対象:

| パフォーマンスデータ | | 2020年度実績 | 対象範囲および算定方法 |
|------------|---|--------------------------|--|
| 社会 | 女性マネジメント比率 | 7.9% | シスメックス株式会社 課長級以上の女性比率(2021年3月31日時点) |
| 環境 | 温室効果ガス排出量 スコープ1 (固定排出源からのエネルギー起源CO ₂ 排出量 および社用車からのCO ₂ 排出量) | 4,034 t-CO ₂ | 各項目の対象範囲および算定方法などは P68~P70参照 |
| | 温室効果ガス排出量 スコープ2 | 15,476 t-CO ₂ | |
| | 温室効果ガス排出量 スコープ3 (物流におけるCO ₂ 排出量) | 16,691 t-CO ₂ | |
| | 水使用量 | 452 千m ³ | |
| | 国内産業廃棄物排出量 | 513 t | 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」 に基づく排出量 |

実績データ ガバナンスデータ

▶ コーポレート・ガバナンス

医療機関等への資金提供等に関する情報※

日本

(単位:千円)

| 種類 | 詳細 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|---------|---|---------|-----------|---------|
| 研究費開発費等 | 大学や研究機関等との共同研究または委託研究、公的規制のもとで実施される臨床試験、治験、製造販売後臨床試験、製造販売後調査、および企業が独自に行う調査等の費用が含まれます。 | 297,106 | 393,458 | 335,606 |
| 学術研究助成費 | 医療技術の学術振興や研究助成を目的として行われる奨学寄付金、一般寄付金、および学会等の会合開催を支援するための学会寄付金、学会共催費が含まれます。 | 312,138 | 299,657 | 219,013 |
| 原稿執筆料等 | 医学・薬学に関する情報、自社製品の適正使用等に関する情報等を提供するための講演や原稿執筆、コンサルティング業務の依頼に対する対価(報酬)等が含まれます。 | 42,990 | 47,903 | 41,890 |
| 情報提供関連費 | 医療関係者に対する自社製品の適正使用、安全使用のために必要な講演会、模擬実技指導、説明会等の費用が含まれます。 | 233,292 | 241,298 | 177,272 |
| その他の費用 | 社会的儀礼としての接遇等の費用が含まれます。 | 35,902 | 45,736 | 30,615 |
| 合計金額 | | 921,428 | 1,028,052 | 804,396 |

米国 サンシャイン法

| 種類 | | 2018年 | 2019年 | 2020年 |
|-----------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 金銭または金銭的価値のある物品 | 件数 | 667 | 265 | 31 |
| | 金額 | US \$152,027 | US \$146,234 | US \$197,763 |
| 研究 | 件数 | 9 | 9 | 4 |
| | 金額 | US \$228,092 | US \$179,685 | US \$21,568 |

フランス サンシャイン法

| 種類 | | 2018年 | 2019年 | 2020年 |
|-----------------|----|----------|----------|----------|
| 金銭または金銭的価値のある物品 | 件数 | 351 | 239 | 53 |
| | 金額 | € 27,603 | € 15,416 | € 4,332 |
| 役務に対する報酬 | 件数 | 7 | 8 | 9 |
| | 金額 | € 58,500 | € 13,883 | € 75,930 |
| 契約 | 件数 | 19 | 10 | 17 |

ベルギー サンシャイン法

| 種類 | | 2018年 | 2019年 | 2020年 |
|-----------------|----|---------|-------|-------|
| 金銭または金銭的価値のある物品 | 件数 | 7 | 0 | 0 |
| | 金額 | € 9,261 | 0 | 0 |

※ 当情報は、行政当局または医療機関等による確認等を通じ修正されることがあります。

公開対象

米国

以下の相手先に対しての資金提供等(金銭または金銭的価値のある物品、研究)

- ・米国の医師
- ・米国の教育研究病院

フランス

以下の相手先に対しての資金提供等(金銭または金銭的価値のある物品、役務に対する報酬、契約)

- ・フランスの医師、医療専門家、医学生
- ・フランスの医療関連法人(教育機関、企業等)

フランスのサンシャイン法では、契約金額は公開対象ではありません。

ベルギー

以下の相手先に対しての資金提供等(金銭または金銭的価値のある物品)

- ・ベルギーの医療従事者
- ・ベルギーの医療関係の団体
- ・ベルギーの患者団体